

等ニ對スル裁人未遂並拳銃砲火集類取締法施行規則違反事件ニ就
テ爾來被告等ハ東京拘置所ニ收容中ノ處昭和十八年五月三日東京
刑事地方裁判所第三總法廷ニ於テ之レガ準備公判ヲ開廷シタル後
被告三名ハ五月七日

鹿子木 員 信 松 永 材

兩名ヲ身柄受人トシテ賣付出所セリ
而シテ、五月十二日東京刑事地方裁判所第六總法廷ニ於テ之レガ
第一回公判ヲ開廷サレ爾來

裁判長 石田 和 外判官

判官 金子 正 則 白 居 直 道

檢事 中村 信 敏 山 本 彦 助

辯護人 宮内 巖 夫 花 井 忠

梅谷 勝

等ニ依リ一週三回(月水金)ヲ公判開廷日ト爲シ被告側ニ在リテ
ハ天野辰夫ノ指導下ニ所謂神兵隊事件公判戰ノ精神ヲ繼承スル意
味ヲモ含メ果敢ナル公判戰ヲ展開奪取ヲ續行セシムガ

五月十二日（第一回）

中村殺身ノ公訴事實ノ論述アリ

五月十四日（第二回）ヨリ五月二十四日（第六回）

片岡 被告

思想運動ノ推移過程、団体観、金體ユダヤ禍ニ依ル國內思想狀

脚兵隊事件及まことむすび運動ノ概要等ニ就テ陳述

五月二十六日（第七回）ヨリ六月四日（第十一回）

中村 被告

思想運動ノ推移過程、団体観、臣道實踐等ニ就テ陳述

六月七日（第十二回）六月九日（第十三回）

西山 被告

思想運動ノ推移過程、臣道實踐ニ就テ

六月十一日（第十四回）

中村 被告

勤皇まことむすび運動關係ニ就テ

六月十八日（第十五回）ヨリ七月五日（第二十一回）片岡被告
直接ノ功微原因、並其素因、滿洲事變ヨリ平沼内閣當時ニ至ル
國內情勢、阿部内閣ヨリ第三次近衛内閣ニ至ル國內情勢、犯行
決行ニ至ル主觀的經緯ニ就テ

七月七日（第二十二回）ヨリ七月十六日（第二十六回）中村被告

直接ノ功微原因、阿部内閣ヨリ近衛内閣ニ至ル當時ノ内外情勢
日米交渉ヲ中心トスル親英米派ノ策助ニ就テ陳述

七月十九日（第二十七回）ヨリ七月二十六日（第三十四回）片岡

中村・西山被告三名ニ對シ交々
犯行ノ決意、行動、等事實審理ヲ爲ス

九月二十日（第三十一回）公判停止

九月二十七日（第三十二回）證人申請、被告側ヨリ

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 近衛文層 | 平沼騏一郎 | 太田耕造 |
| 大山比佐層 | 松岡洋右 | 白鳥敏夫 |
| 仁宮武夫 | 西谷彌兵衛 | 野村吉三郎 |
| 中野正剛 | 鹿子木員信 | |

辯護人

富田 健治

橋本 清吉

寺田 裕次郎

吉男

天野 辰夫

本間 意一郎

等ヲ證人トシテ夫々申請セリ

十月八日（第三十三回）

證人申請ニ關シ被審局側ニ在リテハ喚問ノ要アリト意見ヲ述ベタルモ裁判長次ニ通り決定ス

被告側申請中

平沼 麒一郎

太田 耕造

松岡 洋右

白鳥 敏夫

仁宮 武夫

西谷 彌兵衛

野村 吉三郎

中野 正剛

鹿子木 員信

辯護人側申請中

天野 辰夫

久入 隆四郎

等ヲ決定シ更ニ裁判所ノ職權ニヨルモノトシテ

難波 田春夫

濱 勇治

加藤 万壽雄

田中 慎次郎

根本

常

ヲ決定ス

十月十五日（第三十四回）ヨリ證人喚問ニ入ル

證人、中野正剛

三國同盟締結ヲ中心トス 内外ノ情勢、親英米勢力、ニ就テ訊問ス

十月十八日（第三十五回）

證人、白鳥飯夫

日本外交ノ沿革、第二次近衛内閣當時ニ於ケル日本外交ノ方針

並情勢、ニ就テ訊問ス

十月二十二日（第三十六回）

證人、天野辰夫ノ喚問決定ニ在リタルモ二十一日早朝行ハレタ

ル動星まこととむすび關係者ノ檢學ニ際シ證人天野及片岡、中村

兩被告モ檢學シタル爲メ

十一月二十六日（第三十七回）

片岡、中村兩被告ハ前記一齊檢學關係ニ依リ檢學セラレタル爲

簡單ニ西山直ノ補充訊問ヲ行ヒ閉廷ス

前記一齊被疑ニヨリ片岡、中村兩被告ニ對シ十一月五日付ヲ以テ
犯罪ノ嫌疑ヲ起由トシテ其付取消處分ニ付セラレ十二月十三日、

東京拘置所收容

十二月二十二日（第三十八回）

被告三名ニ對シ裁判長一應訓諭シ爾後ヲ戒シメ閉廷ス

十二月二十四日（第三十九回）證人寺田裕次郎

三國草率同盟締結當時ニ於ケル政界情勢並外交關係ニ就テ陳述

シ約二時間公衆停止アリ

一月七日（第四十回）

證人仁宮武夫喚問ノ録定ニ在リタルヲ召以狀送達不能ノ爲證人

出廷セズ審問ニ至ラズ閉廷ス

一月十日（第四十一回）二月七日（第五十二回）證人西谷彌兵衛

日本資本主義經濟ノ發展過程ヨリ資本主義經濟ト財閥、國體關

係等ニ就テ論述ス

一月十二日（第四十二回）證人難波田春雄

日本資本主義經濟ノ發展過程ヨリ資本主義經濟ノ國策ニ及ボシ
タル影響等論述ス

一月十四日（第四十三回）證人太田耕造

日獨伊三國軍事同盟ヲ中心トスル内外情勢ニ就テ陳述ス

一月十九日（第四十四回）第四十七回、第五十七回、證人富田健治

三國同盟締結當時ニ於ケル國內情勢、近衛新体制ニ就テ論述ス

一月二十一日、證人仁宮武夫

日米交渉關係、南進政策問題、外交關係等ニ就テ

一月二十四日（第四十六回）

被告三名ニ對スル補充訊問

一月二十八日（第四十八回）證人田中慎次郎

（公開停止ヲ以テ審理ス

一月三十一日（第四十九回）證人野村吉三郎

交渉關係ニ就テ

二月二日（第五十回）第五十一回、證人加藤真壽雄

日米交渉關係、米國內ノ情勢ニ就テ

二月十四日（第五十三回）證人根本 常

所謂レットマン、コックス謀報事件真相ニ就テ

二月十八日（第五十四回）證人橋本清吉

南進政策、三國同盟締結當時ノ警察取締ノ實情ニ就テ

二月二十一日（第五十五回）

第五十六回、第五十八回、第五十九回、證人鹿子木員信

大正、昭和年代ニ於ケル維新運動ノ概況並國內諸情勢、三國同盟締結當時ニ於ケル内外情勢、維新公論社、まことむすび關係思想戰ノ方途等ニ就テ

三月八日（第六十回）證人追加申請

伊 藤 述 史

石 原 完 爾

常 岡 瀧 雄

ヲ追加證人トシテ申請ス

中村武ニ係ル言論爭執、並陸軍刑法違反事件ヲ併合審理ノ旨決定ス
三月十一日

賈付取消處分ニ依リ東京拘置所ニ入所中ニ在リタル片岡敬告出

所ス

三月十七日、同二十日、同二十九日

平沼祺一郎男ニ對スル所在訊問アリ

三月二十四日（第六十一回）

日程打合せヲ爲ス

四月二日（第六十二回）ヨリ四月二十六日（第六十九回）證人傳

以述史

三國同盟ヲ中心トスル國際情勢、日米交渉關係、真實會性務等

ニ就テ

四月五日

本件關係（岡山）被告土居三郎ニ係ル殺人未遂封助事件ノ分限

公判アリ事實審理證據調ヲ終了ス

四月十四日（第六十三回）

平沼、羽生兩證人ノ所在訊問ノ讀ミ聞ケヲ爲ス

四月十七日

賈付取消處分ニ依リ東京拘置所ニ入所中ニ在リタル中村被告

所ス

四月二十一日（第六十七回）四月二十四日（第六十八回）

四月二十八日（第七十回）ヨリ七月四日（第八十一回）證人天

野辰夫 日本臣民、日本民族われノ自覺、古事記ノ本質、天地劍成、思

想ノ根底、滿洲事變ヨリ平沼事件發生當時ニ於ケル内外ノ情勢

第二次近衛内閣當時ニ於ケル國內情勢、ユダヤ謀略ノ具體的事

實、歴代内閣ノ更迭事情等ニ就テ陳述ス

七月五日（第八十二回）

松岡洋石ノ證人ノ所在訊問調査ノ讀ミ聞ケアリ申請中ノ追加證

人石原莞爾、常岡瀧雄ヲ却下シ本日ヲ以テ一應審理ヲ終了セリ

七月七日（第八十三回）証告求刑、中村校等

本件被告等ハ當時ノ國家内外ノ情勢ニ關シ被告等ノ獨斷短見ニ

基ツク主張ニ依リ國務ノ重責ヲ擔フ國務大臣ヲ殺害セムトシタ

ル行爲ハ許容セラル、セノニ非ラズ被告等ノ國体ヲ防護セムト

スル其心情ハ擧スベキモノアリトスルヲ被告等ノ執リタル行動

ハ國法ノ尊嚴性ニ鑑ミ斷シテ許サレズ極刑ヲ以テ處斷セラレベ
キモノト思料ス、又中村武二係ル言論事犯並陸軍刑法違反事件
ニ就テハ現時局下國內結束ヲ緊要事トスル秋直接行動ヲ示唆シ
政府ヲ論難攻撃スルガ如キハ是又許サレズ極刑ヲ以テ處斷セラ
ルベキモノナリ
トノ最モ峻嚴ヲ極メタル論告アリタル後被告三名ニ對シ夫々
無期懲役
ヲ料スルヲ至當ト思料スル旨ノ求刑アリ
本件辯論ニ就テハ八月二日ヨリ開廷ノ豫定ニ在リ、

(2) 松石一殺害事件控訴公判

昭和十二年八月三十日發生セル

維新公論社關係者、中村

武

ニ係ル殺人事件ニ就テハ昭和十六年四月五日東京刑事地方裁判所ニ
於テ懲役三年六月ノ判決ヲ受ケタルモノレヲ不服トシテ控訴中ニ在
リタル處本年三月十六日東京控訴院第三號法廷ニ於テ第一回公判ヲ
開廷サル

裁判長 飯塚敏夫

陪席 東亮明

被告 吉江知養 齋藤二郎

辯護人 宮内茂夫 石田富平

等ニヨリ被告 小林俊三 化井忠

生活環境、思想経歴、國体観等ヲ訊シタル後事實審起ニ入り

三月三十一日（第二回）

詳細ナル事實審起ヲ行ヒ本日ヲ以テ事實審起ヲ終了ス

四月十日（第三回）

証人トシテ片岡敏、奥戸足百兩名ヲ喚問シ當時ノ實情ニ就テ訊シ

タル後更ニ關口照里証人ノ喚問ヲ決定ス

四月十九日（第三回）

關口照里証人ヲ喚問シ當時ノ狀況被告ノ殺意ノ有無等ニ關スル訊

問アリ証審起ヲ終了シ續イテ檢察ノ論告ニ入り、立會吉江檢事ヨ

リ論告ノ後

昭和五年

(3) 言論事犯並陸軍刑法違反事件

ヲ求刑アル次イテ辯論ニ入り辯護人側ニ於テ誤志過超防衛ヲ以テ
無罪論ヲ主張シ本日ヲ以テ辯論ヲ終了シ八月二日判決言渡シテ
定ニ在リ

昭和十八年十月二十一日、勅皇まことむすび關係者ノ一齊論議ニ

基ク不穩計畫事伴關係ノ中村武二係ル言論事犯並陸軍刑法違反

件ニ就テハ取調ノ結果本年二月二十八日東京區裁判所ニ起訴セラ

レタルガ本件ニ就テハ三月八日ヲ以テ平沼事件公判ニ併合審理ヲ

行フベキヲ決定シ、四月七日石田裁判長係リニテ之レガ第一回公判ヲ開廷セラレ開廷

ト向時ニ檢事側ヨリ、人心ヲ惑亂シ造言蜚語ニ亘ル虞レアリト

意見ヲ開陳シタル結果公開停止ヲ以テ審理ヲ行ヒ

四月十二日(第二回)引續キ公開停止ニテ審理ヲ續行本日ヲ以テ

一應事實審理ヲ終了セリ

而シテ其後平沼事件ニ於ケル公判審理中、若干ノ補充訊問ヲ行ヒ

タル後平沼事件第八十三回公判ニ於ケル檢事ノ論告ニ際シ前記ノ

如ク

無 期 懲 役

ニ包含求刑セラレタリ

辯論ニ就テハ追テ日時ヲ決定行ハル、豫定ニ在リ

(4) 天野辰夫等ニ係ル言論事犯關係公判

昭和十八年三月七日付「報國新報」第一〇二六號並維新公論機關紙「維新公論」三月號紙上ニ

「東條首相に忠言す戦時刑法改訂絶對不可」

ト題スル天野辰夫署名ノ所謂戦時刑法改正反對ヲ主眼トスル東條内閣誹謗論難ノ記事掲載ニ就テハ前紙共同年三月六日付ヲ以テ發賣頒布禁止處分ニ附セラレタルガ更ニ事件ニ關シテハ新聞紙法違反被疑事件トシテ

署名責任者 天野辰夫

維新公論社發行人 芥川治郎

同 主幹 市毛康隆

報國新報編輯 夏津珍彦

擔當者

其他關係者 榎掛正浩

同 此邊 肇

等ヲ檢閱課ニ於テ檢取調ノ結果天野、芥川、菱津ノ三名ハ容年三月十七日市毛ハ同三十一日何レモ

言論出版集會結社等臨時取締法違反

トシテ起訴（幇掛、遊邊ハ不起訴處分）セラレ同年四月二十六日芥川ハ罰金二〇〇圓市毛、菱津ハ罰金一五〇圓（天野辰夫ハ公判請求）ノ略式處分ニ付セラレタルガ之レニ對シ菱津ハ服罪ニシテ芥川、市毛ノ兩名ハ同月二十八日東京區裁判所ニ正式裁判請求ニ基キ天野辰夫ノ審理ト併合シ同年八月七日東京區裁判所第三號法廷ニ於テ永判係リニテ第一回公判ヲ開廷セルモ天野被告ヨリ政治問題其他ニ就テノ上申書ヲ提出スベク申請シ爾來公判延期處本年四月十七日東京區裁判所第六號法廷ニ於テ第二回公判開廷

市毛康隆ノ事實審理

五月三日第三回公判開廷

芥川治郎ノ事實審理

五月十五日第四回公判開廷

立會 吉橋檢事ヨリ

芥川 罰金 二〇〇圓
市毛 罰金 一五〇圓

ノ求刑アリ

六月十三日ハ第五回公判開廷シ天野辰夫ニ對スル審理ノ豫定ニ在
リタルモ天野ヨリ病氣中ノ故ヲ以テ訊問事項ニ就テハ答申書ヲ以
テシタキ書ヲ申請シ其後公判開廷ニ至ラズ公判延期中ニ在リ
(5)殺人豫備住居侵入事件公判

本籍 千葉縣安房郡豊田村大字加茂三〇七
住居 當時不定

大京執關係者

加茂靜コト

鈴

木

仲

治

明治三十二年七月二十九日生

ハ昭和十八年三月二十日經濟奉還ニ基ク國家革新ノ意圖ノ下ニ財
界ノ代表人物ヲ殺害セムトシ岩崎久彌男邸ニ侵入シ同男ヲ殛サシ
トシタル事件ニ就テハ昭和十八年四月九日東京刑事地方裁判所ニ

事件送致同月二十二日殺人嫌疑並戰時住居侵入事件トシテ起訴セ
ラレタルガ

同年五月五日東京區裁判所ニ於テ之レガ第一回公判開廷サレ

判 事 高 三 林 判 事
檢 事 柳 川 檢 事

係リニテ事實審理ヲ行ヒ更ニ同月十九日第二回公判開廷審理ヲ續
行シ同日ヲ以テ事實審理ヲ終了シ立會柳川檢事ヨリ論告ニ次テ

懲 役 三 年

ノ求刑アリ

同月二十六日第三回公判開廷高林判事ヨリ

懲 役 二 年

ノ判決言渡シヲ受ケ直チニ服罪下獄セリ

3. 特別特赦

昭和十七年二月十八日大東亞戰爭戰捷第一次祝賀ニ際シ復權令公布
ト共ニ特別特赦ノ恩命アリ右特別特赦中ニ「政治ノ革新ヲ企圖シ之

ガ實行ヲ爲サムトシテ犯シタル罪ニシテ其ノ動機專ラ忠君愛國ノ至情ニ出デタルモノニシテ大東亞戰爭勃發前ノ罪ニシテ昭和十七年四月三日以前ニ確定判決ニ依リ夫々刑ノ言渡アリタルモノノ該當者ニ依リ所謂血盟團、五、一五、七、五ノ諸事件ヲ始メ其ノ他、二、二六、神兵隊ハ恩命ニ浴セズノ關係者ニ對シ昭和十八年四月二十六日特赦發令天長節當日夫々居任地ノ地方檢察局ニ出頭ヲ命ズ該地方檢察正ヨリ嚴事裡ニ「特典ヲ以テ其ノ刑ノ言渡ノ效力ヲ失ハシメラル」旨ノ特赦狀ヲ傳達セラレタリ（五、一五事件軍人側ハ陸海軍軍法會議法務官ヨリ傳達）

當日東京刑事地方裁判所一木輪太郎檢察正ヨリ傳達サレシモノニ如シ

註一五、一五事件關係頭山秀三ハ本件ノ外ニ脅喝事件アリシ爲

恩典ニ浴セズ

二七、五事件關係ハ何フレモ責付所中ニテ刑ノ未執行ニアリ

シモノ

事件名	刑	期	氏名	生年月日	備考		
血盟團事件	無期ナラモ減刑ニヨリ懲役十五年 昭和十五年假出所ス	同	井上 昭	明治一九四二〇			
			菱沼五郎	大正元、八二〇			
			四元義隆	明治四一三、八			
			田中邦雄	明治三三、一三			
			須田太郎	明治四一七、一四			
			伊藤 彦	明治二二二、二九			
			同	同	同	同	同
			同	同	同	同	同
			同	同	同	同	同
			同	同	同	同	同
五、一五事件	懲役三年 (執行済)		大川 周門	明治一六二、一六			
同	懲役一年二月		本間 憲一郎	明治二二二、二四			
七、五事件	懲役五年	同	秀田 虎雄	明治二二四、二五			
			影山 正治	明治四一六、一一			
			長谷川 幸男	大正二五、一一			
			谷川 仁	大正三三、一一			
			窪田 早禎	大正四六、二五			

七、五事件

前同

茂呂宣八

大正 三〇 四

總役二年

瀧澤利量

明治四一 七 一七

禁錮三年

玉井光一

明治四三 五 六

總役二年

村岡清藏

明治四一 一 一〇

總役二年三年間猶豫

武田包州

大正 九 三 二 二

總役一年

江坂勇之助

明治四一 一 二 七

總役二年三年間猶豫

大庭 實

大正 六 三 二

前同

玉井雄二

大正 二 八 一

前同

藤原 仁

大正 二 一 六

前同

川上正雄

大正 四 九 一

前同

生駒重司

明治三六 一 一 五

湯淺内相暗殺豫備事件

佐々井一晁

明治一六 三 二 二

禁錮二年三年間猶豫

渡邊勇司

明治二八 六 二 六

天謀組事件

總役一年

西里金藏

明治三三 五 九

同	同	獨立青年社 事件	不穩文書臨 時取締違反	松平宮相英 備大使暗殺 事件	誦願令違反 外一犯	濱口首相殺 人未遂事件	同	銃砲火藥類 取締法違反	前同件	統天塾事件	少年血盟 事件	同
懲役八月	前同	懲役三年六月	禁錮二月二年間猶豫	禁錮二年六月	懲役五ヶ月四日	懲役二十年 懲役八年	罰金二百五十圓	懲役三年九月	懲役二年六月	懲役一年以上二年以下	前同	
福原仁榮	林 弘	兒玉譽士夫	大竹 貞一	杉森商之助	山田 忠一	佐郷屋留雄 松木良勝	岩田愛之助	高畑 正	藤森又彦	垣田忠三郎	石井藤三郎	
明治三六〇二一	大正元一二二一	明治四四〇一八	萬延元・三一	明治四一三三	明治三九九二〇	明治四一〇一 明治三一〇一	明治二二一三	明治三四五九	明治四一〇一〇	大正六六三	大正八三二六	

一主タル革新陣營ノ動向視察取締

(一) 主要團體ノ動向

1 大日本赤誠會(會長 橋本欣五郎)

本團體ハ橋本會長ノ所謂「橋本欣五郎宣言」ヲ根本信條トシテ活潑ナル革新運動ヲ展開シ來タリタルガ昭和十六年十二月八日ノ米英ニ對スル宣戰ノ大詔渙發ニ依リ從來ヨリ強烈ニ主張シ來タリシ米英ニ減南進斷行ノ所論モ一應目的ヲ達シタルト橋本會長ノ衆議院議員當選續イテ眞政會參加ニ依リ政治的野望アリトノ批難ヲ受クル等々ノ原因ニ胚胎シ會勢漸次衰微ノ途ヲ辿リタル爲メ之レガ挽回ヲ圖ルベク政府政策ニ呼籲四月一日小石川後樂園ニ

皇國生産者大會

ヲ開催シ生産增強ノ急務ナルヲ絶叫セルガ豫期ニ反シテ依然タル會勢不振ヲ暴露シタルヲ以テ同年四月十七日附會長命令ヲ以テ全國地各塾ノ一齊改組ヲ命ズルト共ニ企業一家體制ノ實現、大井上農法ニ依ル食糧増産航空機十萬臺製作ヲスロীগンニ八月以降連續的ニ開

東東北近畿、中國、九州各地方ノ塾ヲ中心ニ講演會、講習會、座談會ヲ開催スル一方本部ニ於テモ青少年講習會、地方塾責任者ノ特別懇談會ヲ開催スル等極メテ勢力的ナル會勢挽回ノ方策ヲ講ジタリ而シテ昭和十九年ニ入ルヤ一月七、八日ノ兩日ニ亘リ三重縣、宇治山田ノ伊勢神宮ニ橋本會長等約四〇〇名

皇戰必勝増産祈願大會

ヲ舉行シ大井上農法ニ依ル米穀一億石ノ飛躍的増産ヲ誓願新發足ヲナシ機關紙「太陽大日本」ニ依ル宣傳普及ハ勿論會長自ラ陣頭ニ立チ關東、東海、九州各地方ニ食糧増産ノ地方農民大會ヲ順次開催果敢ナル増産運動即會員獲得、會勢挽回運動ヲ展開セルカ偶々此ノ大井上農法ノ宣傳普及ガ地方各府縣ノ農政當局トノ間ニ意見ノ對立衝突ヲ來シ運動ノ進展ニ至大ナル支障ヲ來タシタルヲ以テ之レを障害ヲ打開セント本年四月十六日以降本部幹部古澤元ハ大井上農法反對派タル鹽入農事試驗場長ヲ訪問討論ヲナシタル外本部員大橋三郎、古澤元ノ農商大臣、農政局長訪問更ニ建白書提出ト進展シタルモ益々事態ハ深刻化シ容易ニ打開セザルノ狀勢ニ立チ到リタルヲ以テ橋本會長

ハ五月十五日付松岡紙々上ニ「再び大井上長法に對し朝野々訴ふ」ト題シテ「言語同斷ノ妄動乃至ハ」其ノ陰謀的行爲ハ痛憤ニ堪へ又等々ト憤滿ヲ披瀝シテ猛烈長面長事技術障營ニ反逆シ反政府的動向ヘト推移セリ斯ル狀勢下ニ於テ北九州ヘノ空襲更ニ中部太平洋殊ニ「サイパン」ヲ繞ル戰局ノ謀相感々深刻トナルヤ橋本會長ノ心境ノ動搖蔽イ難キモノアリ從ツテ從來ヨリノ運動方針ニ再檢討、再反省ヲ加ヘザルノ餘議ナキニ至リ新ヲタル運動方針ニ付キ構想ヲ練リツツアリタル處其ノ成案ヲ得タルヲ以テ七月二十六日日本部ニ地方塾責任者原口秀雄外二十七名ヲ召集第二ノ橋本宣言トモ稱スベキ

救國國民體當リ運動宣言

及之レガ行動綱領ヲ發表シテ協議決定捲土重來果敢ナル運動ニ突入セントスル狀勢ニ在リ、
戰局ノ機相益々深化シ重大ナル段階ニ立チ到リタル今日其ノ具體的方途ガ戰局ト脱ミ合セ如何ナル行動ニ出ルヤ豫測ヲ許サザルモノアリ今後ノ動向コソ極メテ留意スベキモノト思料シ銳意觀察中ナリ

2. 大日本皇道會（赤尾 敏）

本國體ハ創立以來終始一貫其ノ行動目標ヲ共產主義撲滅ニ置キ對外
的ニハソ聯邦ノ覆滅ヲ擬シ信條トシテ果敢ナル文書戰、言論戰ヲ展
開シ來タリタルカ時局下戰略外交上ノ見地ヨリ其ノ運動目標ヲ表面
轉換スルノ已ムナキニ依リ運動ノ方途ニ苦慮中衆議院議員ニ當選ス
ルヤ

三田村 武夫

笹川 良一

眞崎 勝次

白鳥 敏夫

等ト結ビ「八日會」ヲ結成反翼政的延テハ東條内閣不信ノ色彩ヲ濃
化シ去ル第八十一議會ニ於ケル戦刑法改正案ノ上提ニ對シテ「國政
變亂ハハ軋國薄浪云々」ノ檄文ヲ頒布シテ極力反對意見ヲ表明シテ之
レガ通過ノ阻止運動ニ狂奔セリ
斯ル勞團氣ヲ抱藏シテ昨年六月ノ第八十二回時議會ニ臨メル赤尾會
長ハ開會劈頭即チ東條總理ノ施政演說會直シテ「議會ノ審議權奪
ノ不潔發言ヲナシ問題ヲ惹起シ遂ニ翼政會ヲ除名サレ今日ニ至レル

方爾來反以條的銳鋒ヲ内臟シナガラモ極力之レヲ自省シ東條内閣ヲ敢
テ戰時内閣ト呼稱シテ支持ヲ表明聖戰完遂一億敢闘ノ演說會數十回ニ
涉リ開催シテ國民ノ士氣昂揚ヲ圖ル外朝鮮問題ニ關心ヲ持チ殊ニ内地
在任洋人ガ空襲必至、疎開實施ニ勁搖ノ兆アルヲ憂慮シ之レガ對策ト
シテ本年四月二十九日ヨリ本所公會堂外八ヶ所ニ「敵國降伏必勝祈願
演說會」ノ各稱ノ下ニ之レガ勁搖防止ノ演說會ヲ開催セリ
更ニ五月ニ至リ「朝鮮同胞に對シ大政翼贊の道を開かれん事を要請す」
ト題スル半島人ニ參政權附與ノ建白書ヲ東條首相・小磯總督ニ提出ス
外六月二十七日ニ至リ國民ノ士氣昂揚ノ原動力ハ食糧ノ増配ノ外他
ニ方策ナシトシテ「必勝増配の建白」ト題スル建白書ヲ東條總理並ニ
内田長商相ニ提出特ニ内田長商相ニハ直接面會シテ非常時策トシテノ
増配ヲ要求セル等ノ運動ヲ展開シタリタルガ今般小磯、米内聯立内閣
ノ組織ヲ見ルヤ直チニ首相官邸ヲ訪問シテ「眞ノ皇國魂ノ發揚ニ依ル戰
力増強ノ實現、政治經濟各方面ノ皇道維新的總切替斷行、愛國の言論
ノ認容」等ヲ内容トスル建白書ヲ提出シ首相自ラ讀ヲ實行シテ奮起セ

ヨト要望退去セルガ戦局ノ概相逆賭シ難キ状勢ニ在ル現段階ニ於テ如何ナル舉措ニ出ツルヤモ測リ難ク其ノ動向ニ付キ銳意觀察中ナリ

3. 大日本一新會（總裁 吉田益三）

本會ハ東條首相支持ノ立場ヨリ東條内閣ノ施政ニ協力「戰時下政治策動ノ封匿」「國內戦争体制ノ強化確立」「國民思想ノ明徴、敵愾心ノ昂揚」「戦力ノ急速増強」等ヲ主張シ全組織ヲ舉ゲテ之ガ運動ヲ展開シ來レリ

即チ昭和十八年四月開催ノ全國大會ニ於テ東條内閣支持ノ方針ヲ明ラカニシテ以來總裁吉田益三八隨時政府要路者ヲ訪問種々建言シ、國体運動モ亦「銃後防衛」等ト稱シテ專ラ此ノ方針ニ副フ處アリタルガ其後漸次戦局逼迫シ國內政治狀勢ガ緊迫化セルニ伴ヒ益々斯ル傾向ヲ如實ニ現ハシ昭和十九年三月開催ノ全國大會後ハ其ノ概相一層顯著ナルモノヲ示シタリ殊ニ最近國內政治狀勢ガサイパン戰ヲ機トシテ急迫シ來ルヤ之ニ異常ノ關心ヲ拂ヒ「戰時下政權策謀ヲ紛碎スベシ」ト強調シ之等ノ動キニ對シテ嚴ニ監視スルノ態度ニ出テアリタルモ遂ニ政變

トナリ東條内閣ガ桂冠セシ爲大ナル衝撃ヲ蒙リ傾來ノ運動方針ハ俄カニ蹉跌シ現在方針轉換ノ餘儀ナキニ蓬着セルヤノ狀況看取セラレルアリ故ニ今次ノ政變ヲ目スルニモ「翼政會等一部不純勢力ガ企テタル不當ナル陰謀ナリ」トナシ「舊政黨の政權盲動ガ再ビ显ラレルニ至ルハ遺憾ナリ」トテ翼政會ヲ滅スベシ等ト難シ勢ヒ新内閣成立ニ對シテモ好感ヲ示サズ目下靜觀的批判態度ヲ持シ居レリ今後ノ動向ニ相當注意ヲ必要トスル現況ナリ

茲ニ昭和十八年度全國大會以降ノ主ナル運動狀況ヲ摘記スルニ在リ如シ

(1) 文書

機關紙「一新」ヲ毎月一回刊行シテ會員其他ニ頒布セル外昭和十八年五月ニ「肥豚米英人を根絶す」「米英の掃射に恨みを吞んだソロモン」の勇士を忘るな」外二種ノ敵愾心昂揚ノ傳單ヲ作成全國ニ頒布シ

同年同月ニハ「山本大將の忠死に應へ上、敗戦的言動を完封せよ」ト

セシ指令ヲ發シ全會員ノ憤起ヲ促セリ

(2) 演說會

昭和十八年七月三日夜日比谷公會堂ニ於テ尊皇攘夷大演說會ヲ開催
(言論制限注意二件)又

昭和十九年二月二十五日夜豊島公會堂ニ同二十六日夜ニハ蒲田新宿
國民學校ニ三月二十九日ノ午后ニハ日比谷公會堂ニ四月中ニハ大阪
市、富山市、小松市ニ五月中ニハ廣島市、小倉市、中津市、八幡市
等ノ地方諸地ニ於テ更ニ六月二十三日夜ニハ蒲田新宿國民學校ニ於
テ夫々一億血戰大演說會ヲ開催シ敵愾心ノ昂揚國內態勢ノ強化ヲ強
調セリ

(3) 全國大會並ニ地方大會

昭和十九年三月二十八日赤坂區溜池町三會堂ニ於テ全國大會ヲ開催

維新的國民運動統一の件

戦力增強阻害者絶滅の件

日本の徵用制度確立の件

敵愾心昂揚の件

無能なる全各市町村長排撃の件

等ノ運動要綱ヲ協議決定シ更ニ此ノ協議事項ノ實踐ヲ期セムガ爲ニ
引續キ

四月一日大阪市ニ關西地方大會

同二十三日富山市ニ東北北陸地方大會

五月二十一日八幡市ニ九州地方大會

ヲ開催延イテ組織内ノ結束ヲ圖ル處アリタリ

(4) 進言並要請

總裁吉田益三方要路者ニ隨時直接ノ進言ヲナセル外

昭和十九年四月七日代表者ヲ學ゲテ東京都廳ヲ訪問大連都長官ニ對

シ辭職勸告ヲ提出更ニ

同年六月一日同機内務省ヲ訪問「警戒警報發令中ノ都廳舍出火事件

ヲ捉へ都長官ノ責任ヲ追及シ大連長官ハ無能ナルニ依リ辭職セシメ

ラレ度シトセル要請書ヲ内相宛提出シ

同六月二日ニハ「タラワ、マキン兩島玉碎將士軍屬ノ合同葬ハ儀式

ニテ行ハレ度シトセル進言書ヲ作成シ吳海軍鎮守府司令長官及
同鎮守府施設部長宛郵送又同年七月二十日ニハ「東條内閣桂冠ヲ
リ翼政會ノ策謀カラス斯ル舊政黨の政權盲動ハ斷ジテ許サズ」
セル旨、翼政會事務局長宛電話ニテ進言ナシタリ

4. 國粹同盟 (總裁 笹川良一)

最近本會ハ飛躍的ナル政治進出ヲ企圖シ巧ミニ時流ニ順應シ笹川總裁
ハ議會ニ於テ推薦選舉ノ反對ヲ先驅的ニ提唱シ或ハ戰刑法反對運動ニ
小笠シ又ハ八日會ノ中心人物トシテ暗躍スルト共ニ國體的運動モ頓ニ
活潑ヲ呈シ昨年來都下並ニ全國的ニ敵愾心昂揚演說會ナルモノヲ開催
スルト共ニ山本元帥遺墨展覽會ヲ開催シ又本年ニ入りテ翼政有志代議
士會ニ於テ國民總躍起運動提唱セララルヤ在野的立場ニ於テ側面ヨリ
之レヲ援助スルモノナリトシテ三月十一日大阪中之島公會堂ニ結盟十
三年大會ヲ開催シ

協力的是正國民運動の推進工場すめらぎ化運動の展開
等ノ二大項目ヲ當面ノ運動方針トシテ決定總裁笹川良一以下幹部總出

陣ニテ大阪、京都、滋賀、岡山、廣島、山口、岐阜、愛知、靜岡、各地方ニ於テ戦力増強
演説會並ニ産業以士ノ慰安大會ヲ開催、銳意會勢擴張ト會員獲得ニ奔走
セル爲會員モ急増ヲ示シ現在全會會員二三、〇〇〇ヲ算スルニ至レリ
管下ニ於テモ五月十三日日比谷公會堂ニ於テ結盟十三年關東大會並ニ
同記念演説會ヲ開催シ聽衆三、五〇〇ノ稀ニ見ル盛況ヲ呈セルガ本演
説會ヲ繞リ端ナクモ本會ノ益々増進ナル

關東挺身隊長

坂田

博

富二十七年

ノ朝比奈秀徳殺害事件ヲ惹起シタリ

2 管下ニ於ケル主要運動
次ニ昨年四月以降管下ニ於ケル主要運動並ニ右殺害事件ヲ簡説ス

4 昨年六月四日笹川總裁ハ中野區内科亭日本閣ニ

京都市會議員

福島正守

馬越旺輔

中野四郎

井田友平

高野 納康 平尾 東策
高野 納康 平尾 東策
高野 納康 平尾 東策

等ヲ招待シ京都府制實施後ニ於ケル協力方ヲ懇望セリ

五月十二日日比谷公會堂ニ於テ立憲十二週年記念演說會ヲ行ハシテ六月十五日ニ至ル間豊島公會堂他要所ニ於テ時局演說會ヲ開催シ國內態勢強化ノ急務ヲ強調セリ

六月五日山本元帥ノ國葬執行セラルル生カ同元帥ヨリ笹川總裁宛發信アリタル所謂「白亞陸堂の盟」ト稱スル書翰約三萬部ヲ作成全國學校官廳其ノ他有力者宛發送セリ

八月十二日都議會選舉對策トシテ新人議員ノ進出方ヲ要望セル進言書ヲ内相都長官警視總監宛郵送セリ

九月九日伊太利政變發表セラルルヤ緊急幹部會ヲ開催シ「伊太利單獨媾和と吾等」ト題シ最悪ノ場合ハ單獨決戦ヲ要望セル聲明書ヲ都下新聞社宛發送スルト共ニ駐日伊國大使館ニ對シ「伊太利政權ノ指揮命令ニ服従スベキコト」即刻バドリオ政權否認ヲ通告スルコト

右措置ヲ在日伊内民ニ指令スルト共ニ全世界ニ公表スルコト
以上ノ要請書ヲ發送セリ

九月十三日以京都發選ニ於テ幹部

齋 藤 吉 男 齋 藤 清 亮

齋 藤 卯 助 佐 藤 榮 志

片 桐 勝 昌 以上五名當選セリ

十九年五月六日王子區以京証券印刷株式會社ニ於テ産業戰士慰安大
會ヲ開催ス

五月七日軍人會館並ニ日比谷公會堂ニ於テ國民學校教育職員慰安大
會ヲ開催ス

五月十三日日比谷公會堂ニ於テ結盟十三年關東大會並ニ記念演説
ヲ開催總衆三、五〇〇名

辯士第一席參與 飯 島 與 志 雄

第二席總務 新 田 賢 平

第三席總務 吉 松 正 勝

ノ順序ニ依リ孰レモ政局ノ重大性ヲ強調戰力増強ノ急務ヲ力説セル
 ガ吉松正勝ハ政府ノ施策ヲ論難セル爲中止ヲ命ゼラレタル他閉會ノ
 辭ニ於テ朝比奈ハ「和氣清層・菅公・楠公ノ三大忠臣ト雖モ在世中ハ
 忠臣トハ目サレズ後世歴史家ニ依ツテ始メテ忠臣ト目サルルニ至ラ
 タノデアアル」旨ノ言論ヲ爲セル結果左ノ如ク殺害事件發生セルモノナ
 リ

5 殺人事件ノ概要

犯人前田博ハ昭和十六年一月國粹同盟ニ入黨同十八年三月關東挺身
 隊長ニ就任セルガ同十二月七日横須賀海軍廠ニ應徵宿舍寮長トシテ
 服務中大會當日横須賀ヨリ上京シテ參會直接朝比奈ノ諭旨ヲ聽取セ
 ザリシモ閉會後辯士控室ニ於テ之レヲ知り國体冒瀆ナリトシテ痛憤
 朝比奈ニ「軍人ガ勅諭一字ノ誤讀ヨリ自決セル例アリ」ト其ノ責任
 ヲ追及朝比奈ノ陳謝アリタルモ本名ハ國体關係ハ絶對的ニシテ單ナ
 ル失言トシテ看過シ得ベキモノニ非ラザル嚴肅ナル問題ナリトシ朝

比奈ニシテ自決セザルニ於テハ國體護持上殺害スベキ決意ヲ爲セル
モ當夜ハ隊員ト共ニ國粹寮ニ宿泊シ翌十四日

赤坂 田町 國粹寮 分室

ヨリ自己ノ日本刀ヲ携行午前十一時頃

荒川區日暮里町九ノ一〇六八

朝比奈 秀 徳

方ヲ訪問自決ヲ迫リタルモ朝比奈ニ其ノ意ナシト見ルヤ矢庭ニ携行
ノ日本刀ニテ腹部其ノ他ヲ突刺シ即死セシメタルヲ現場ニ於テ所轄
日暮里署員之ヲ檢舉シ事件ハ犯人ノ身分關係ヨリ横須賀軍法會議ニ
移送サレタリ

5. やまとむすび (主宰 佐々井一梟)

本團體ハ其ノ根本理念ヲ大東亞圈内ニ宣布スルト共ニ世界皇化ヲ目標
トスルモノナリトシ其ノ第一着手トシテ支那問題解決ノ急務ヲ力説之
ガ具体策トシテ三百年ノ歴史ト二千七百萬ノ會員アリト稱セラルル中
中華民國秘密結社「社報」ト思想運動合作ヲ計畫主宰佐々井一梟ハ昨

年八月二十八日皇軍慰問ノタメ渡支ヲ機會ニ代表章授一ヲ訪問提携ノ緊密化ヲ計リ十月八日歸京セルノ外

昨年四月赤坂三會堂ニ於テ全國大會ヲ開催代議員二百名ノ外一般會員三百名參集シ同志的結束ノ強化ト對外示威ヲ行ヒタルガ其ノ席上顧問佐々井信太郎、木村尙一、理事長田中清大佐ノ外常任理事五名理事十六名中央幹事七十五名中央委員七十四名ノ役員ヲ選任新陣容ヲ確立セ

其ノ主張スル所ハ

「吾等ノ陣容ハ現状維持勢力ニ對スル抗爭決戦ヲ意識シ示威的存在デアラネバナラヌ

吾等ノ行事其レ自体ガ一ツノ抗爭デアリ決戦デアル

敵ガ吾等ノ組織ヲ恐ルルハ最後ノ場合ニ發揮スル力ガアルカラテ將來盟旗千本支部一千ヲ目標トシテ絶叫セネバナラヌ」

トシテ秩序アル組織ト團結ノ強化ヲ強調セリ

專ラ其ノ組織活動ヲ兵庫、福島、群馬、新潟、岐阜、京都、大阪、愛知、長野、山形、岩手、神奈川等ニ置キ兵庫縣下ニ於テハ殆ンド信

的ニ入會者多ク永上郡ノミニテモ支部二十會員一千餘ト稱セリ

東京ニ於テハ昨年六月ヨリ蒲田、品川區等城南工場地帶獲得ノ各
地ニ於テ演說會、座談會等開催セリ

本年二月十五日發行機關紙「維新大日本」一七二號ニ於テ主宰佐々

一見ハ第八十回帝國議會豫算委員會ニ於テハ

「國家經濟財政々策ノ根本方針及農地交換分合自作農創設維持事業」

ニ就テ所管大臣ニ對スル質問速記録ヲ轉載シ政府ハ速カニ土地國有ヲ

斷行シ自作農創設ヲ計ルベキ要旨ヲ主張スルヤ皇道日報社長福田素劍

ハ機關紙皇道日報紙上ニ於テ本年一月末頃ヨリ數回ニ涉リ佐々井ノ

地國有論ハ西歐革命思想共產主義ノ起源トモ言フ可ク佐々井ノ之ヲ論

ズルハ時局ヲ認識セズ議會ニ對シ侮辱ヲ與ヘルモノニテ又思想團體ト

シテノやまとむすびハ其ノ會員ニ舊勞農系農民多キ事實ニ依ツテ見ル

モ革命結社偽裝共產黨ナリト斷シ筆誅ヲ加ヘ一方佐々井又其ノ論調執

拗ニ同ヲ重ネルニ於テハ名譽毀損ニヨリ告訴スル旨ヲ洩シ其ノ動向相

當注意ヲ要スルモノアリタルモ其後佐々井ヨリ福田宛「土地國有論自

作農創設ニ關スル佐々井ノ抱懷スル眞意ヲ解明セル音翰」ヲ郵送スル等ノ事アリテ福田モ之ヲ諒トセルモノノ如ク其後機關紙ニ掲載ヲ中止シ有耶無耶ノ中ニ推移セリ

其後本年三月二十四日日比谷公會堂ニ於テ「皇國日本獨自ノ國家主義經濟體制ノ提唱」ト題スル主宰佐々井一晁ノ獨演會ヲ開催次ヲ翌二十五日神田一ツ橋教育會館ニ於テ佐々井外全國代議員百七十名出席シ全國大會ヲ開催盟旗千本支部一千ヲ目標ニ當面ノ運動方針トシテ

一 大東亞戰爭眞義徹底運動ヲ標榜

一 國民決戰生活確立運動

一 決戰増産挺身運動

ヲ採決シ爾來其ノ活動分野ヲ地方下部組織ノ擴充強化、未組織地區ノ獲得ニ集中主宰佐々井一晁ハ山梨、兵庫、大阪、岐阜、福島縣下ニ主張各地ニ講演會、演說會、座談會等ヲ開催シツツアリ

其ノ講演論旨ハ

一 今次世界大動亂ノ原因ト世界の變革時ノ過程

一 現代機械文化ノ犠牲ト經濟維新

三現前ノ財政經濟方策ニ對スル再檢討ノ時機到來。物價問題、貨幣價值ノ問題、増税、國債問題等

四自 農創設ノ積極化

五以上種々ナル觀點ヨリ貨幣價值ノ變動シナイ經濟體制確立ノ要即チ

皇國日本獨自ノ國家主義經濟體制ノ確立ヲ提唱セリ

東條內閣ニ對シテハ表面是々非々ノ態度ナリト稱シ居リ、モ其ノ實
與黨的立場ニアリタルガ段内内閣出現ニ對シテハ小磯首相朝鮮總督時
代數回面接シ密接ノ間柄ニ在リトシテ佐々井ハ

「戰時中ナルガ故ニ如何ナル内閣ガ出現シヤウト兎ヤ角言フ事ハ嚴ニ
謹マホバナラヌ

自分ハ小磯大將トハ密接ナ間柄ニアルノデ之ニ絶對協力スルト共ニ
申言モシ又時ニ苦言モ呈スルデアラウ 云々」

ト洩シ一應絶對支持ヲ表明シ居ルモ一部本部員ニ在リテハ米內大將ノ
出馬ニヨリ革新性ヲ喪失セル和戰兩儀内閣ニシテバ下リオ政權化スル
ノ虞アリトシテ不滿ノ意ヲ表シ今後吾等ハ政府ノ態度ヲ嚴重監視ノ要

アリトナスモノアリテ今後ノ動向相當注意ヲ要スルモモアリ

6. 天國打開期成會（理事長 滿井佐吉）

本會運動ハ神界經綸ノ神業ヲ奉贊シ日本 天皇ヲ世界 天皇ニ仰グ神政復古實現ヲ使命トスル國民運動ニシテ此ノ使命達成ノ爲メニハ先ツ組織ノ擴大強化ヲ圖ラザルベカラズト爲シ本年一月八日ニハ神道各派ニ呼ビ掛ケ皇大神宮ニ於テ戰勝祈願ヲ行ヒ七月五日ニハ皇道社今泉定助ニ働キ掛ケ其ノ共同主催ニテ「國威宣揚敵國降伏祈願祭」ヲ執行スル等ノコトアリ其ノ他演說會、講習會、座談會等ヲ開催シ機關紙ノ發行（毎月一回約二、〇〇〇部）ト相俟チ會勢伸張ヲ圖リツテ其ノ金難ノ爲メ其ノ運動活潑ナラス又本年一月十五日新タニ「東京日本文學部」ヲ創設従前ノ總務制ヲ廢止シ理事幹事ヲ任命大イニ人事ヲ刷新シ會勢ノ擴大強化ニ努メタルモ其ノ結果ハ滿井理事長個人ノ性格ヲ強ク反映シ神憑リ的色彩濃厚ト爲リ離脱スル會員相次イテ生ジ大衆性ヲ缺キ却ツテ逆效果ヲ來スニ至レリ

而シテ滿井ノ最近ノ思想動ヲ視ルニ政治、經濟、教學、^人宗教、藝術等

一切之レヲ神ながらニ切り替へ神界ノ備ナル國內体制ノ具現ニ依リ今
次大聖殿ヲ勝チ抜カムトスルモノニシテ其レニハ一億國民ガ神人一体
即隱ノ境地ニ至リ「布都ノ神訓」ヲ奉振セザルベカラズト爲スモノナ
リ即チ満井ハ

「此ノ異常ノ大局ヲ乗り切ル底力ハ精神カヨリ發シ其ノ精神カハ一億
ヲ擧ゲテ神ニ歸リ眞ニ神ナガラニ奮ヒ起チ神人一体ノ力ヲ發動スル
以外ニ方途ナシ」

ト神人一体化ヲ強調其レガ爲メニハ先フ指導者タル官界ノ惟神化ヲ必
要トストテ

「不肖熟々惟ミルニ一億神ニ歸ルニ先フテ内閣先フ惟神化セラレザル
ベカラズ官界先フ惟神ニ大正セラレザルベカラズ信念ナキ唯物思
想乃至ハ王道聯盟ノ思想者ハ空シク内閣ト官界ヨリ去ルベシ」

ト叫ビ尙
「不肖不敏ナルモ神縁深ク裕別ノ神護神導ニヨリ常ニ現界ノ具依化ニ
先フ神界ノ神謀神策ノ一端ヲ識ルヲ得テ以テ一世ニ先驅シテ

ヲ亂打スルコト久シ

ト自ラ靈地ヲ得神聖（言靈）ヲ聞キ得ル一世ノ先驅者ナリト稱シ更ニ「布都の御魂」ノ靈劍「十握の劍」ノ靈劍ヲ振ルベキコトヲ神界ヨリ啓示セラレ不肖之レヲ奉シテ米英ヲ斬ルコト既ニ久シク又風雨ノ神ニ祈リテ龍卷ノ神風ニテ米機其他來襲ヲいぶき落ス神力ノ發効モ既ニ祈リ終リテ神界ヨリ其ノ效力發成ヲ啓示セラレタリ」
「私ハ同志ト共ニ日夜靈劍ヲ振り神人即應一體ノ神戰ニ奉仕シテ居マ
ス」

ト神界ノ啓示ニ依リ「布都の神劍」奉振ノ法ヲ感得セリトシ自ラ之レヲ奉シ行スルト共ニ一億國民ガ此ノ「布都の神劍」ヲ奉シテ起ツコソ米英連滅國難打開ノ秘鍵ナリトシ夫レヲ念願シ屢々修齋講習ヲ開催スル事共ニ「一億布都の御劍を奉じて起て」ト題スルパンフレットヲ發行（一九一九年二月二十日）シ或ハ機關紙「大槓」等ニ依リ普及宣傳ニ努マツテアリ其ノ狂的ナル言行ニ對シテハ十分ナル注意ヲ加ヘツテアリ更ニ滿井ハ衆議院議員タルノ立場ヨリ目的完遂ノ爲メニハ政治力結集ノ要アリト爲シ爰ニ（昭和十七年十二月）「天國打開議員聯盟」ヲ結

成シ貴族院議員一名衆議院議員三四名ノ加盟者ヲ見タルモ數回ノ懇談
會ヲ開催シタルノミニシテ特記スベキ活動ナク尙翼政ニ對シテハ其ノ
幹部ハ何レモ解セズ祭ヲ知ラズ又議員ノ職任ヲ辨ヘザル橫暴甚ダ
シキ者ナリト爲シ終始小滿ヲ履キ居リシガ本年一月二十四日遂ニ
「翼政會ニ所屬スル時ハかんながらナル正シキ議會活動ヲ爲シ得ズ政
治的良心ハ之レヲ許サズ」
トノ理由ノ下ニ脫退スルニ至レルガ其ノ後注意スベキ行動ナシ

(二) 急進分子 (團體) の動向

1 大東塾關係

(A) 塾長影山正治、塾監長谷川幸男、同人武蔵包洲、同藤原仁、同下村武等ハ別掲ノ如ク、十八年天長ノ佳節當日特赦ノ恩典ニ浴シタルガ(下村ハ當時應召中)其ノ後モ依然、神政復古勸皇村建設ヲ根本義トシ當時二十名内外ノ塾員ヲ擁シ、無缺ナル維新者ノ育成ニ主力ヲ傾注、嚴シキ日當行學或ヒハ夏期特別講習會等ヲ通シ努力シツ、アル處ナルガ、特赦ノ恩典ニ關シ當時機關紙「大孝」(十八年五月十日付)ニ草莽ノ記ト題スル感激文ヲ發表シタルガ其ノ一節ニ

「天長ノ佳節ニ當ツテ臣等特赦ノ聖恩ニ浴ス、即チ大御心ニ依リテ所謂七、五事件ノ罪ヲ神赦シニ赦シタマハリシナリ臣等タゞ聖恩ノ無窮アルニイフチ戰キ無聲ノ號泣ヲ續クノミ、此ノ微衷申サムト欲シテ言フシ、只ヒソカニ謹ミテ期ス、一族一門學ゲ、無限ニ生キカハリツ、尊皇討奸ノ一道

ヲ行ジ當ニ大君ノ遊ニコソ無窮ニイノテ死ヲムコトナレ
ト聖恩ニ應ヘルハ更ニ一層維新實現ノ臣道與實ノ意ヲ強調シ
タル狀況ニテ其ノ以降ハ特ニ「まつり」ノ盛露コソ維新ノ必至條件
トシ、英靈公葬弔式統一ヲ運動（所念）目標ノ一ツニ加ヘ
塾生ノ精神指導ヲ強化シ一方機關紙「大孝」（發行部數千部）
及表裏關係ニ在リ、且亦主宰スル處ノ文化園地「新國學協會」
並其ノ機關誌「ひむかし」（發行部數三千部）ヲ以テ其ノ思
想ノ開明ト組織活動ニ資シ、諸ノ處ノ「歌心創心」ノ意義ヲ
昂揚シツ、アリ、即チ新國學協會（ひむかし歌會）ヲ通ジテ
廣ク大東塾ヲ識ラシメ「歌心」ノ飛躍ヨリ大東塾精神タル「
創心」ヲ心解セシメ、兩者渾然一體ヲ維新者ノ資格條件トシ
積極的ナル勳皇精神ノ把握ヨリ更ニ捨身奉行ノ實踐者タル尖
銳急進分子ノ獲得ヲ企圖シツ、アリ
此レガ爲本年紀元節當日「聖職完徹、維新促進、英靈公葬弔
式統一」ヲ所念スト稱シ、塾生、塾外生、ひむかし會員等約
六十名ヲ助員、塾ヨリ宮城前ニ徒步行進シ更ニ宮城前ニ於テ

右ノ所願ノ熱誠ヲ得テ當日早朝塾前ニ於テ山ハ同志ヲ
代表シテ所ノ誓（ワケヒ）トシテ左手小指無名指ノ各一關節
ヨリ切斷セシメテ供ヘ、夫々所願文ヲ奏シ與當ナル決意ヲ影響
下分子ニ示ス處アリ

● 右精神指導ノ反映

同人野村辰夫ノ英皇公葬問題ヲ纏ヒ豊橋市長ニ對スル暴行不
件、文士中河與一ノ殴打傷害事件、更ニ故古賀元帥ノ葬式妨
害事件（各別項記載）ヲ生ミタルガ、更ニ本月十五日野村ヲ
葬式妨害事件第一回公判日ニ當リ、假入塾生福本美代治當三
十九年ノ自刃未遂事件ヲ派成セリ
之ヨリ先本年一月五日塾生

- 芦田 林 弘
- 竹 川 哲 生
- 森 山 文 雄
- 遠 藤 彪
- 川 野 定 澄

ニ徵用令書交付ノ爲、澁谷區役所ニ出頭ヲ命ゼラル、ヤ一月

出頭シタルモ該令書ノ受領ヲ拒ミタル事犯ヲ惹起セリ
 依ツテ當局者ヨリ交々其ノ不心得ヲ懸諭シ、二月五日當座ニ
 出頭セシメ該令書ヲ交付セリ、然ルニ彼等ハ「工場ニ於テ
 以上有爲ナル御奉公ヲ強ニ於テ奉公シ居レリ」と稱シ遂ニ出
 頭命令日タル二月八日ニハ出頭セス忌避ノ舉ニ出タルヲ以テ
 二月十日職業課（後勾引狀發令）ニ於テ檢舉シ二月十二日
 東京拘置所ニ強制收容セラレタリ
 斯クテ取調ノ結果何レモ國家總動員法違反トシテ起訴トナリ
 四月二十日東京區裁判所永井判事係（十一號法廷）ニテ公判
 ノ開廷ヲ見、事實審理ノ後、長谷川幸男ノ證言ニ續キ、吉橋
 俊之助ノ論告求刑（各被告懲役十ヶ月）次テ岩田辯護人ノ辯論
 ヲ以テ第一回ヲ了リ、越ヘテ五月二日左ノ判決ヲ言渡サレタ
 リ

竹川哲生	懲役十ヶ月
森山文雄	遠慮
川野定澄	各懲役六ヶ月

尙芦田林弘ハ身元調査關係ノ書類不備ノ爲分難サレタルモ、
五月十八日、竹川同様懲役十月ノ判決ヲ受ケタリ、
然ルニ竹川外三名ハ五月四日、芦田ハ十五日何レモ上告シ、
更ニ二十七日ニ至リ各被告共許サレテ保釋出所シ爾來在塾修
行中ニアリ

又客年三月財閥打倒ノ爲、目標人物ニ岩崎久彌ヲ撰ビ、暗殺
ヲ企圖殺人準備戰時住居侵入事件ニ因リ懲役二年ノ言渡ニ依
リ服罪セル假入塾生鈴木仲治當四十六年ハ入塾前既ニ如上ノ
決意ヲ持シ「同志獲得武器入手」ノ方法トシテ大東塾ヲ利シ
タリトハ雖モ「塾」存在ハ外部ニ於テ特異ノモノト擬視サレ
居ル狀況ニアリ

併セテ今次敗壞ニ當リテ塾長ガ塾員ニ洩ラシタル言動ニ
「小嶋、米内」如キ者ガ大命ヲ拜スルナド凡ソツマラン事ナ
リ、小嶋ハ人物ノ如キ世評アルモ事實ハ謀略家ナリ、米内
ハ一時目標トシタル人物ナリ

一節アリ以上ヲ綜合シ今後ニ於ケル功同ハ特段ノ注意ヲ要
 スル處ナリ
 尙塾員ハ幹部以下年少者多ク兵役關係ヲ有生シ、昨今ノ狀況
 ハ神兵隊、七、五ニ件ノ拘置所生活等ニ依リ徵兵檢査未了ア
 リシ彭山塾長ハ去ル七月十五日受験、其ノ結果「甲種合格」
 トリシガ目下幹部級ノ入營應召狀況ヲ視ルニ

- 塾 監 長 谷 川 幸 男 (教育)
- 同 人 村 上 金 三 郎 (現役)
- 牧 野 晴 雄 (臨時)
- 武 田 包 洲 (臨時)
- 下 村 威 ()
- 彭 山 英 男 (現役)
- 準同人 坪 川 滿 (現役)
- 鈴 木 正 雄 ()
- 堀 河 隆 ()
- 横 堀 謙 一 (臨時)

ノ如クニシテ別記ノ野村辰夫同人ノ未決勾留ヲ加ヘレバ現在
塾者ハ

塾長 彭山正治

同人 藤原仁 鬼山保

準同人 竹川哲生 芦田林弘

森山文雄 栗山利一

ニシテ氣鋭低下ノ感アリモ反面塾長直接黨陶ノ機會増加シ居
リ要注意傾向ハ依然タルモアリ

元勳皇まことむすび（元維新公論社）關係

右結社ノ幹部ハ殆下脚兵隊告リ直シ組ニシテ毎月十一日ヲ神兵
隊記念日トシ新同志ニ神兵隊精神ヲ注入スル一方機關紙「まこと
とむすび」一維新公論」ヲ以テ思想主義ノ宣傳ニ努メ來タリタ
リ

然レ共其多クハ反政府意識極メテ烈シク毎號注意或ハ削除處分
ヲ享ケザルコトヲク特ニ客年三日天野辰夫ノ戦刑法改正反對ヲ

論文（維新公論）ガ新聞紙法違反ニテ起訴後ハ其ノ分子ハ一應
反政府ノ態度ヲ明カニスルニ至レリ。此ノ爲メ諒ホテまことと
すび主幹者安田鎮之助ノ獨裁的傾向ニ不審アリシ、茨城在住幹
部

黒江直光 森川長孝 西山三郎

等ハ同、羽生隆四郎ノ意ヲ汲ミ天野ガ強制收容アルヤ否然
政府ノ運動ノ展開ヲ迫リタルモ安田ハ自論ヲ以テコレヲ抑
シタル事實ヲ名分論トシ天野ガ三月十七日出所スルヤ此ノ安田
ノ態度ヲ指摘「勸皇運動ニ消極化セリ」ト天野ニ訴ヘ非難シ
容強化ノ名ノ下青年幹部ニ依テ指導スルコトニ決定一萬安田ノ
隱退ヲ迫リタリ、此處ニ於テ天野モ右青年層ヲ暗ニ支持スル
ニ至リ腹々接衝ノ結果五月六日迄一安田ハ隱退セリ
此ノ安田辭任ノ翌日七日平沼事件ニ因リ未決在監中ノ片岡駿、
村武、西山直ノ三名出所シタルヲ特ニ安田ノ理解者ナリシ中
ニ決定後アリシ爲メ不審裡ニ承認シタルモ後任ニ日負シ居リ
黒江ノ主幹者ハ水泡トアリ此處ニ此ノ紛争ニ無關係ナル部

外同志

元七生社同人

關

根

三子雄

ヲ決定六月十二日當廳經由主幹者變更手續了セリ
次テ七月十一日御兵隊事件十週年記念日ニ當リテ例月ト場所ヲ
異シ

赤坂區青山南町六ノ二六

大日本青年會道場

ニ開催、特ニ本間憲一郎ヲ招キ「御兵隊名奉還」ノ旨ヲ發表シ
タルガ八月一日ニ至リ「御兵隊名奉還」ニ關スル挨拶狀「アル趣
意書」印刷文「被禁」各友交方面ニ郵送セリ、又機關紙「まこ
とむすび」ノ發行人、編輯人ハ本間憲一郎直系ノ澤井己實ナリ
シモ同人等トハ近時茨城縣下ニ於ケル一縣勸業運動對まことむ
すびトノ對立感ヨリ石澤井名儀ヲ森川長孝ニ變更八月一日許
可アレ、コレニ併行維新公認社主幹者市毛康隆ヲ森川治郎ニ九
月二十日變更手續了シ、異分子ヲ中央部ヨリ掃拭以テ陣容整備

ヲ行ヒタリ

斯ク表面ノ強化策ノ終ニ於テ倒閣謀略ニ件ヲ不穩動向アリ遂ニ
十月三十一日一齊檢舉トアリ其ノ経緯ハ別掲ノ如クアルモ本年
三月十五日兩結社及各機關紙發行ノ許可ヲ取消シ處分ヲ爲シタ
ルガ、天野辰夫以下同志間ニ在リテハ檢舉並ニ右處分ニ極度ノ
憤懣ヲ感シ居リ平沼事件ノ公判ヲ利シテハ檢舉ヲ難シ居リタル
ガ四月十七日中村武、實付再出所スルヤ一時低調アリシ陣營モ
同人ニ對スル信望因リ同志間ハ頓ニニ活況ヲ生ミ一萬天野ハ接
見者ニ依然反政府ノ言動ヲ以テ應ヘル等要注意動向ヲ再現スル
ニ至リタリ然レ共結社活動ト宣傳啓蒙機關ヲ失ヒタル爲メ過去
ノ如キ積極的ナル反響ヲ生ム事ナク只同志間思想、政治意識ノ
昂奮ヲ高カムル現象ニ止マリタルモ一面熱意深キ同志ノむすび
ハ更ニ強化セリ。右推移ヲ以テ五月十四日ニ至ルヤ實如結社、
機關紙ノ處分ニ對シ行政訴訟ヲ提起シ維新公論社關係片陶駁、
まことむすび關係中村武一目下此ノ審理ヲ監視シ表面結社活動
ヲ控ヘツ、モ從來ノ同志間ノ連絡、新同志ノ獲得ニハ積極化シ

友誼者ノ會合ニハ夫々同志ヲ出席セシメ目的達成ニ異常ナル努
力ヲ拂ヒツ、平沼事件ノ公判ノ意義ヲ闡明シ以テまことむすび
的ノ同志ノ結束ヨリ脱兎分子ノ引拔ヲ策シ居ルヲ以テ動向注意
シ來リタリ、

(後記)

井上 昭、前田虎雄關係

血盟團事件關係者ニシテ在京スルハ

井上 昭 四 元 義 隆 須田 太郎

ノ三名ナルガ各年天長節ノ特赦ニ就キテハ何レモ聖恩ノ安大ナルニ感激ヲ表明シ居レル處ナリ、其ノ後ノ動靜ヲ視ルニ井上ハ依然表面の活動ナク腹心分子、古内榮司、義沼五郎、黒澤大二等ハ茨城縣下ニ夫々生業ヲ營ミ時折上京、井上ノ許ニ出入シ居ルモ何レモ思想運動ノ特異同ナク四元ハ井上ノ日常生活ニ不謙アルモノアリ後記五、一五事件三上卓ト行動ヲ共ニシ居リテ目下井上トノ交渉コレ亦特異ノモノナシ

井上ト三十年來ノ血闘ノ間柄ニ在リ前田虎雄ハ住居ヲ市川市ニ構ヘ后々關係ヨリ

總町區九段

統治問題研究所

ニ事務所ヲ伴置シ師兵隊ニ件關係佐藤守義ヲ腹心トシテ通勤政治情報ノ蒐集日毎ニ程近キ井上昭ト往復シ兩者ノ緊密化ニ比例シ注意ヲ深ムル要アル狀況ナリ

本間憲一郎關係

右者大東亞協會ヲ主宰依然民間情報機關ト諺稱シ蒐集成レル思料ヲ以テ當局ニ進言運動ヲ實行シ來タリ、傘下ニ師兵隊關係岩田一（日本論叢社）小島茂雄（古事記研究會）石井忠一（日本思想研究會）ノ勢力ヲ集メ右活動ヲ續行シ居リ現張ニテハ急進的實踐助行ハ認メラレザルモ同人ノ性格ヨリシテ急進分子トシテハ其ノ動靜忽ニナスヲ待ザルモノナリ、

三上卓、四元義隆關係

三上ハ近時嘗テノ同志五、一五關係者トノ思想運動ヲ共ニセザ
專ラ血盟國關係四元ト提携運動ノ第一目標ヲ同志獲得ニ置キ全
國ヲ巡歴、地方ニ同志ヲ求メントシタルヲ結實セズ或ヒハ中央
ニ整ノ開設ヲ企圖シタルヲ資金難ニテ實現セズ兩三年ヲ經過シ
來タリタルガ今回東京ニ道場ノ創設ニ成功、去ル六月二十八日
牛込區早稻田町十番地

「皇風學舎」

ヲ開設式典ヲ舉行セリ

(目下ノ收容者ハ學生十一名)

尙兩名ハ六月中旬ヨリ「東條内閣ニテハ戰勝ヲ望ミオシ」トシ
進言ヲ、岡田啓介、近衛文相、廣田弘毅等重臣層ヲ屢訪試シタ
ル事實アリ

各觀情勢ヲ推移如何ニ依リテハ直接行動ニ出ツルノ虞アリ視察
ヲ嚴ニ爲シ來リタリ、

結社事務取扱状況

要ニ言論出版集會結社等臨時取締法ニ基キ結社存続許可申請ヲ提出セル
体ハ四三四口体（内支部一九六）以治結社ヨリ思想結社ニ改編セルモノ五
口体新規出願一七口体アリ

是等口体中昭和十八年四月以前ニ於テ其ノ大半（許可一二九取下一五二）不
許可九八計三七九）處理ヲ視タルガ其ノ後ニ於ケル狀況ハ

許可三口体（内新規出願一モノ二）

取下シタルモノ一九口体

進達中ニシテ處分未決ノモノ二三口体

留保検討中ノモノ一六口体

（他ニ支部關係九口体）

新規出願口体一七口体ノ内

（許可一三 検討中ノモノ四）

許可口体ニシテ許可取消處分ヲ受ケタルモノ三

解散届ヲ提出セルモノ三

主幹者等ノ死亡ニ依リ事實消滅セルモノ
ニシテ取扱結社名並主幹者氏名等左記ノ通り

記

許可處分アリタル団体

昭和十八年九月十日

世界修理固成會 (新規出願)

安山 實

思想戰研究所 ()

林 仙之

大日本護國青年會 (存續)

佐原 勇吉

取下ヲナシタル団体

精神科學研究所

南方會

大日本協會

東亞新秩序研究會

對支同志會

維新青年前衛隊

聖戰同盟

スメラ學塾

日本精神道場維新塾

不二俱樂部

東南亞細亞民族解放同盟

國防研究會

皇道婦人聯合會

亞細亞民族問題研究會

日進達中ノ口体

日本南方協會

興亞運動同志會

東亞聯盟協會在原文支那

時務研究會

興南協會

青年亞細亞同盟

日本經濟學盟

大東亞黎明會

日本力會

無名士俱樂部

大孝滿榮會

國心會

祖國會

大日本同志會

海洋國策研究會

日本國體學會

南進勤皇會

東亞思想戰研究所

黑龍會

啓明社

明德會

關東國粹會

辛未同志會

南方國研究會

奉仕經濟口

南鵬會

東武會

保留檢討中ノ団体

大東亞共榮圈研究會

大日本忠正會

神祇官復興促進聯盟

時局研究會

農村文化研究會

士風會

至誠會

江京明倫會

京武台城北支部

東亞聯盟協會東京地方事務所

東京市支部

日本橋支部

拓南協會

東亞協會

惟新大道宣揚會

東亞聯盟同志會

帝大齋正期成同盟

國際日本協會

皇政協力會

大日本勤皇產業口

淺草明倫會

東亞聯盟同志會神田支部

東京府支部

淀橋支部

新規出願団体

2. 許可セラレタルモノ

世界修理團成會

安山實

思想戰研究所

杯仙之

1. 檢討中ノ団体

日本皇政會

以弘臺

大直會

世界思想戰研究所

(一) 許可取消處分アリタルモノ

維新公論社

芥川治郎

勤皇まことむすび

山根三千雄

大日本勤王同志會

(二) 解散届ヲ提出シタルモノ

アシア青年社 (兒玉孝士 天)

戰時體制強化聯盟 (川原信一郎)

以方同志會 (中野正剛)

(三) 主幹者死亡ニ依リ自然消滅シタル団体

皇道宣揚新聞雜誌聯盟

四 宗教運動ニ對スル觀察取締

（一）宗教運動ノ一般的動向

宗教警察ノ對象トシテハ神道教派佛教宗派基督教團其他寺院教會ト之等ノ系統ニ屬スル宗教結社（宗教類似團體）アリテ之等ノ一般的動向ハ時局ヲ認識シ勤勞奉仕國防獻金等統後活動ニ協力的態度ヲ示シツツアリト雖モ多數ノ之等宗教團體中ニハ其認識ヲ誤リ戰時下ノ客觀狀勢ヲ殊更ニ歪曲逆用シ反戰反軍的言動ヲ流布シ又國体明徴ヲ標榜偽裝スル不逞宗教ニ於テ其所說ハ眞偽不明ノ古文書ヲ絕對眞實ノモノナリトシ長クモ皇統ノ序列ヲ紛淆シ奉リ若クハ日本陸國ノ歴史神話傳説ヲ誹謗否定スル等國民ノ國体觀念傳統的思想信仰信念ヲ動搖混迷ニ陷レシムルガ如キ反國家的動向ヲ示スモノアリ

特ニ神道ニ於テハ維新ノ大道ニ徹シ國体ノ明徴ヲ期スルタメニハ所謂神代文化ナル竹内文獻其他ノ古文獻神代文字等眞偽不明ノモノヲ唯一絶對ノモノトシ日本ニハ神武天皇以前ノ神代ニ天神八代人皇九十八代ノ天皇アリ又皇祖ヲ祀ル皇祖皇大神宮アリ現存ノ三種ノ神器

ヨリ百キ眞ノ三種ノ神器アリ此皇統譜及神代史御神寶等ニヨリ日本
悠久幾億万年ノ歴史ヲ知ル事ヲ得ルモノナリトシテ國史神話傳說ニ特異虛妄ノ所說ヲ捏造シ以テ皇室及神宮ニ對
シ尊嚴ヲ冒瀆シ奉ルノ言動ヲ爲スモノアリ
佛敎日蓮正宗ニ於テハ現在ノ日本ハ物資ガ不足シ大水暴風雨戰爭等
日蓮聖人ノ言ハレタ通りノ末法三災七難ガ來テ居ル陛下ガ佛敎ヲ
國敎トナレザルヲ折角取テ障地モ敵ニ取り返サレル一切衆生一
日本人全部一ハ日蓮聖人ノ法本尊タル南無妙法蓮華經ヲ信仰禮拜シ
本尊ノ題目ヲ口唱スレバ人類無上最大ノ幸福ヲ得ルモ此ノ本尊以外
ノ神佛ヲ信仰禮拜スレバ謗法ノ罪トナリ法罰ヲ受ケテ最大ノ不幸ヲ
ヲ招クトシ神宮參拜拒否大麻ノ燒却等皇室及神宮ニ對シ奉リ不敬ノ
行爲ヲ爲スモノアリ嚴密視察取締ヲ爲シ來リタリ
基督教ノ一部ニ於テハ舊新約聖書ヲ神ノ啓示ノ書トシテ唯一絕對ノ
モノトシ聖書ニ示サレタル豫言ハ將來ニ於テ必ズ實現スベシト爲シ
其豫言タルヲ現存ノ人類ハ惡魔ノ邪道ニヨリ惡ニ階リ神ハ三一ノ神
一ヨリ離反反目シ各々國々ヲ造リ思フ儘ニ統治者ヲ建テ居ルモ神ハ

之ヲ默認サレルト雖モ之等各國ハ神ノ豫定ノ時滅亡シ新ニ「神ノ國」ガ建設サレ神ニヨリ支配統治スル世界一元一國家ガ完成スルモノナリ現在ハ其豫定ノ時「末世ノ世」ニシテ其様相ハ戰爭災害等社會時象ニヨリ明カニテ各國ノ滅亡時ニハ日本帝國モ其ノ一環トシテ當然滅亡シ天皇統治モ壞滅スベキモノナリトスル國體ヲ否定シ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ所說ナルヲ認識シフツ吾々神ノ民（基督教徒）ハ神ノ目的實現ノタメニハ神ヨリ與ヘラレタル大使命ヲ果サザルベカラズトシ不穩不逞ナル所說ヲ布教シ實現ヲ期シフツアルモノアリ右ノ如キ狀況ナルヲ以テ銳意觀察取締ヲ爲シ來リタルガ昭和十八年四月以降處理シタル事件左記ノ如シ

（一）犯罪事件

1. 基督教關係

(1) 豫テヨリ容疑團體トシテ内偵中ノ

東京都八丈島中之郷

默示錄研究會

主唱者 杉田 久夫

昭和十八年三月ヨリ十数回ニ渉リ無届出版物ヲ二十餘卷ニ寄
ニ頒布セルガ其ノ内容ハ
「新舊約聖書ヲ神ノ啓示ノ書トシ所謂三位一體ノ神ヲ唯一ノ眞
神天地万物ノ創造者支配者ナリ人類モ此神ヨリ正シキ人トシ
テ創造シタルモ惡魔ハ之ヲ邪導シ罪ニ墮レ以後人類ハ罪人
トナリ神ヨリ離反スルニ到ラタガタメ人類ハ世ノ罪ト死ト惡
魔ノ淫梏下ニ呻吟シ地上ニ國家ヲ樹立シ好ム處ニ從ヒ支配者
ヲ撰擇シ居ルガ神ハ之ヲ救済シ神直接ノ統治スル「神ノ國」
ヲ建設セントシ其ノ基礎ヲ確立スル爲猶太民族ノ「イエス・
キリスト」ヲ地上ニ降シ十字架上ニ死ナシメ之ヲ人類ノ贖ヒ
ト信ズル基督者ヲ用ヒテ神ノ國實現ノ意思ヲ啓示宣傳シ居ル
ガ將來神ノ國實現ニハ神ノ大審判ナル天災地變疫病等汎有災
禍ノ充滿セル大患難時代ヲ顯出セシメ國家及神意ニ添ハサル
者ヲ滅亡シ「千年王國」ナル世界一元一國家ノ神ノ理想社會
ヲ顯現セントスルモノナリ」

ツレバ此ノ世界一元一國家ノ建設ニハ其ノ一環トシテ日本國家
モ滅亡シ 天皇政治モ廢止セラルベキモノナリトスル不穩不逞
ナルモノナリシタメ治安維持法違反被疑事件トシテ昭和十八年
九月二十日檢舉シ十二月一日東京刑事地方裁判所檢事局へ送局
セルガ昭和十九年七月十日懲役二年執行猶豫五年ノ判決言渡ア
リタリ

(2) 昭和十四年六月燈臺社ノ檢舉ニヨリ同教團ト軌ヲ一ニスルモノ
ニ

東京都杉並區天沼一ノ一七一

第七日 基督再臨圖

アリ昭和十五年八月以降特ニ觀察内偵ヲ嚴密ニ行ヒタルガ其致
理タルヤ所謂三位一體ノ解ヲ信シ人類ハ惡魔ノ邪導ニヨリ罪ニ
陥リ人類及万物ハ罪ノ呪ヒノタメ死スルモノトナリタルモ神ハ
愛ノ計畫ヲ樹テ惡魔ノ支配下ヨリ脱セシメントシ其方法トシテ
神ノ計畫ナル義即チ再臨ノ福音ヲ宣傳セシメ之ヲ信ズル者ヲ神

ノ民トシ又第七日即チ土曜日ヲ安息日トシテ遵守スル者ヲ福ノ
民ノ印トシテ惡魔側ヨリ區別シ之者ヲ用ヒテ地上惡魔ノ支配統
治權ヲ取返サント計畫サル故ニ此ノ計畫實現ノためニハ之ヲ總
リ地上ニハ一大鬪争ガ勃發スル殊ニ現在ノ世界大戰大東亞戰爭
等ハ此ノ大鬪争大艱難ナルハハルマゲドンノ前哨戰的様相ヲ
帶ビ纏テ全世界ハ舉ゲテ空前絶後ノ大禍亂ノ所謂ハルマゲドン
ノ一大決戦ニ轉化突入シ現存ノ國家社會制度ハ一舉ニ覆滅變革
完全無缺ノ「新天新地」ト稱スル神ノ理想社會世界一元
ニカ顯現シ人類ニ對スル永遠ノ救ヲ完成スルモノナリト云フ
アリテ大日本帝國及 天皇統治モ亦大患難時代ニ覆滅スルニ
至ルベキモノナリト做シ國體ヲ否定スル不穩不遜ナル結社ナリ
事實ヲ確證セルため昭和十八年九月二十日全圖一齊檢學ヲ斷行
サレ東京關係トシテハ左記ノ通りニテ各々東京刑部地方裁判所
檢事局へ送局セリ

住所	地位職業	氏名	年令	書記月日
東京都杉並區天沼一ノ二七二本部	總理長老	小倉 指郎	四九	四月二十七日
世田谷區船橋町二一八	長老牧師	岡谷 秀	七二	取 中
杉並區天沼三ノ四〇六	福音社々長	梶山 積	五二	三月二十七日
一ノ一七一	本部會計	大河平 愛光	三五	三月二十八日
本部書記	本部書記	井村 宏	三四	三月三十一日
千葉縣君津郡昭和町日本三育學院 内	日本三育學院 長 友老	大槻 金兵衛	五六	三月二十七日
東京都杉並區天沼一ノ一七三	部長牧師	深澤 昇次	六六	一月二十一日
一ノ二七二本部内	書記牧師	原 友安	四五	一月十四日
一ノ二五九	日本三育學院 教 師	小出 豊三郎	四五	七月 八日
神奈川縣中郡南秦野町今泉一一二	元三育學院 教 師	山本 治一	四六	
東京都杉並區中通二	文書指導部 主任 牧師	加藤 哲藏	五三	二月 五日
杉並區天沼一ノ一六一	組合病棟 主任 牧師	倉 知 健太郎	六一	三月二十三日
江戶川區逆井一ノ四二	教 師	星山 珠	六四	二月 八日
杉並區天沼一ノ一七三	婦人指導部 主任 牧師補	深澤 あい	六四	三月十九日

東京市北區分寺町本田新

日本青年學院
長教師補

山形俊夫 三三

三月二十日

並區宿町一八

東亞福音
社事務長

加藤武夫 四一

二月二十四日

中野區本町通六ノ二〇

信者

高木文平 五九

一月十五日

杉並區阿佐ヶ谷一ノ八六六

山本榮次郎 七八

一月二十日

2 佛敎關係

(1) 不敬並言論出版集會結社等臨時取締法違反事件

豐島區巢鴨町七ノ一八六六

日蓮正宗 彈正會

主宰者 藤本秀之助

右ハ日蓮正宗ノ教義ノ流布並ニ同宗ヲ因致ト爲スベシト爲シテ
ヲ爲シ動向注意中ノ處昭和十七年一月頃以降數回ニ亘リ自宅ニ
於テ信者高鹽行雄他十數名ニ對シ

「今次大東亞戰爭ハ日本ガ先ニ手ヲ出シタカラ米英カラ反
レルノモ當然ダ此ノ報イハ 天皇陛下ニモ吾々ニモ來ル今日
本ハ物ガ不足シ餓鬼道ニ墮チテ屠ル日蓮大聖人ノ言ハレタ道

リ宋法三災七難ガ來タノデアル此ノ正法（日蓮正宗ヲ意味ス）
ヲ用ヒタイ爲ニ物資不足戦争大水暴風雨等ノ災難ガ起キルノ
メ戦争ニヨフテ斯様ナ苦シミガ來ルノモ 天皇陛下ガ正法ヲ
國家トシテ御用ヒニナラナイタメテ折角取ツタ領地迄モ亦取
返サレル様ナ事ニナルカラ早ク 天皇陛下ガ此ノ法ヲ國教ト
シテ御用ヒニナル儀ニシナケレバナラヌ正法ヲ國教トシテ御
用ヒニナル様ニナレバ富士ノ大石寺ニハ日蓮大聖人ガ日興上
人ニ興ヘラレタ曼荼羅ガアルカラ此ノ本尊ヨリ戒ノ壇ガ出來
ルノデアアル

ト説教シ畏クモ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ奉リ且ツ戰時下時局ニ關シ
人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタルモノナレバ高鹽ハ昭和十八
年六月十五日藤本ハ同十八日ニ何レモ標記ノ件名ニヨリ檢舉シ
左ノ通り東京刑事地方裁判所檢事局へ送局セルガ藤本ハ昭和十
八年九月二十五日懲役一ケ年四ケ月未決通算二十日ノ判決言渡
アリタリ

日蓮正宗彈正會關係

住

所

職業

地位

氏名

年齢

書類送致月日

東京都豊島區巢鴨七ノ一八六六

出版業

主宰者

藤本秀之助

五二

七月三十一日

東京市向島區吾嬬町西六ノ七八

目録車

信者

高鹽行雄

二六

七月三十一日

(2) 治安維持法違反被疑事件

豊島區目白町二ノ一六六

創價教育學會

會長

牧

口

常

三

郎

右若生活ノ科學ト稱スル創價學說ヲ創案シ之ニ基キ人類最大ノ幸福ヲ得ル最良ノ教育學ナリトシテ創價教育學說ヲ提唱シ更ニ昭和五年頃本學說ト日蓮正宗ノ教理トヲ因連符合セシメ特異ナル創價教育學會ヲ創設シタルガ其教理タルヤ妙法蓮華經ヲ以テ佛法ノ根本宇宙ノ大法ナリ

日蓮圖顯ニ係ル中央ニ法本尊タル南無妙法蓮華經其ノ四方ニ十界ノ諸衆及妙法ノ守護神ヲ配シタル人法一箇十界互具ノ曼荼羅ヲ以テ本尊トシ一切衆生ハ此ノ本尊ヲ信仰禮拜シ本尊ノ題目タル南無妙法蓮華經ヲ口唱スルコトニ依リテノミ成佛ヲ遂ゲ得ベ

シ之レ人類無上最大ノ善ニシテ此ノ信仰ニ因依精進スレバ因果
ノ理ニヨリ最大ノ善果ヲ得幸福ナル生涯ヲ送リ得ベク他ノ神佛
ヲ信仰禮拜スルハ本法門ニ對スル冒瀆ニシテ所謂謗法ノ罪ヲ犯
スコトト爲リ法罰トシテ大ナル不幸ヲ招クベシト説キ右本尊
以外ノ神佛ニ對スル信仰禮拜ヲ極度ニ排拒シ皇大御官ヲ
尊信禮拜シ奉ルコトモ亦勝法ニシテ不幸ノ因ト爲ルベシト説キ
ベカラバトシ實驗證明ト稱シ入信者ガ無キニシテ得タル反面謗
法ノ罪ヲ犯シタル者ガ怖ルベキ不幸ニ陥リタル實例ヲ擧グテ該
致説ヲ證明スルノ手段ヲ用ヒ未信者ヲ強硬ニ説伏入信セシムル
所謂折伏ヲ行ヒ來レルモノニテ其都度謗法罪ヲ爲レシガ爲ニハ
皇大御官ノ大麻ヲ始メ家庭ニ奉祀スル一切ノ神符ヲ廢棄スル要
アル旨強調指導シ信者ヲシテ皇大御官ノ大麻ヲ燒却スルニ至ラ
シメタル等神官ノ尊嚴ヲ冒瀆シ奉ル不敬ノ行爲ヲ爲シ居ル事實
ヲ確認スルヲ得タルヲ以テ昭和十八年七月二十一日第一次本年一月
二十六日第二次ト檢舉シ何レモ左ノ通り以テ所屬地方官判所檢

事務局ニ送致セリ

住所

東京都豊島区目白町一ノ六六六

芝区白金町一ノ八三

豊島区西巢鴨二ノ一四四

蒲田区女塚四ノ二二

四谷区坂町一九

芝区白金臺町二ノ一六

中野区小瀧町一〇

杉並区高圓寺七ノ九二六

神田区錦町一ノ二五〇海濱地方

芝区濱松町一ノ七

職業	地位	氏名	年齢	送致年月日
元小學校長	會長	牧口常三郎	七三	六月三日
小學校取締役	理事	城外三下 戸田 莊一	四四	八月二十七日
食品會社支配人	理事	矢島 啓	三七	八月二十日
出版業	理事	寺坂 陽三	四三	九月七日
日本商手專務	理事	野島 辰次	五二	八月二十五日
會社取締役	理事	稻葉伊之助	五六	八月十四日
會社社長	理事	有村 勝次	四〇	八月十八日
時習會館部長	中野支社長	陳野 忠夫	三九	六月二十七日
日本殖産社員	理事	神尾 武雄	三〇	九月十六日
金融業	支部長	片山 魚	二七	九月六日
		木下 鹿次	四三	九月十九日

東京都蒲田區蓮沼町 七二

神奈川縣横浜市港北區日吉六二

東京都四谷區四谷町三ノ三

會社員

會社員

會社員

理事

理事

理事

中垣豐四郎

西川喜右衛門

洋三
岩崎武

三七

四三

四六

昭和十九年

五月十八日

七月十四日

長官署ニ對スル指示

指示通牒

1 昭和十八年五月五日

日本基督教團關係者ニ對スル觀察取締ニ關スル件

日本基督教團ハ新設三十余派ヲ統合設立シタルモ未ダ統一決定ヲ
脱ス統合前ノ各派ノ教規ヲ増設セル柳門式ノモノニ廻ギス殊ニ昨年
來一部教派ノ教規ヲ社禁止等ニ依リ以テ察官局ノ追放ヲ免ルニ爲ニ
部制ノ解消ヲ行シタルモ未ダ統一決定ニシテ其ノ教規中ニハ固
体否定不敬神官ノ尊嚴冒瀆ノ言説流布或ハ反戰反軍的言辭ヲ弄スル
等口体ノ本義ヲ棄リ治安上看過シ得ザルモノ多キヲ以テ教團内部ノ
觀察取締方ヲ指示セリ

2 昭和十八年八月六日

大目然天地日之大觀教團信徒ニ對スル措置方ニ關スル件

標記教團主筆者小島ヲ外一二名ハ大阪府ニ於テ檢舉後容認決定
セルガ主筆者等ニ於テ誠然悔悟シ且敢然ニ解散ノ意志表示ヲ爲シ名

實共ニ解散スルニ至リタニ越テニ付テ管下后任信徒ノ指置方ニ付テ
指示セシメテノヲリ

5 昭和十八年九月三十日

結社許可区分ニ關スル件

本件ハ世界修起回成會外ニ關係ノ結社許可セラルタル旨ヲ連絡セル

七ノ

4 昭和十八年十月二十七日

革新運動者ノ祝祭強化並ニ指置人等ノ取締在茲方ニ關スル件

一東方同志會、與皇まことむすび、皇道實育年聯盟、大日本勸皇

同志會等ノ全體的一齊激發後中野正剛ノ自殺等ニ依リ關係團體ハ

勿論他ノ革新團體ニモ相當刺戟ヲ與ヘ治安上相當在茲ヲ與スベキニ

付テ祝祭内偵ヲ強化スベク指示セルセシメ

5 昭和十九年三月十八日

與皇まことむすび、革新公認社關係者取締並ニ指置及恩德結社許可

取消区分ニ關スル件

標記團體關係者ノ檢舉取締ノ經過、結社許可取消至リタル經過及ビ

處分後ニ於ケル是等組織分子ニ對スル視察取締方ヲ指示セリ
6 昭和十九年三月二十六日

東方同志會解散ニ伴フ視察取締ニ關スル件

標記團體ハ目的のニ解散シタルモ會員中ニハ處置ニ關シ衝擊ヲ受ケ
種々揣摩慮測ヲ起シテ憤激的ノ浮説ヲ流布或ハ不逞矯激ノ舉措ニ出
ツルヤモ保シ難キニ付予肩到秘密アル視察取締方ヲ指示セリ

7 昭和十九年五月六日

東京都下谷區各宗派寺院聯合會ノ疎開者收容方針ニ關スル件

下谷區内各寺院ハ大日本佛敎會ノ指令タル「都市疎開者受入及幹施
ニ關スル要綱」ニ基キ都市疎開者收容ニ助力シ着々實行中アルニ付
地區ニ於ケル是種ノ動向ノ視察方ニ付キ指示ス

8 昭和十九年六月二十六日

第七日基督再臨會ノ結社禁止ニ伴フ取締方之件

標記團體ハ各年九月治安維持法違反後疑件トシテ該會本年六月二十
六日付結社禁止命令アリタルヲ以テ本該團所屬ノ本部總會傳達所ハ

當然所取セシムルコト、ナリタルニ付キ之ガ取締並ニ關係者ニ對スル取締方ヲ指示ス

各署長會議開催

昭和十九年七月十三日午後二時ヨリ第一方面令、十四日午後二時ヨリ

第二、三、四方面令、十五日午後二時ヨリ、第五、六方面

管下ノ各署長ヲ第一會議室ニ召集

總監ノ訓示

永岡特高部長ヨリ

1. 戦局、政局ノ動向

2. 特高各級ニ涉リテニ革新分子ニ對スル取締取締ノ徹底

3. 言動取締

4. 國民運動ノ取締

等ニ關スル指示ヲ爲シ質疑應答ヲ重ネテ打合せヲ爲シタリ

特高主任會議打合せ會

昭和十九年七月三日午後二時ヨリ管下重要關係署二十七署ノ特高主

任ヲ特高第二課ニ召集シ會議ヲ開催シ

特高幹長ノ訓示

石岡特高第二課長ヨリ

(1) 特高幹長ト急進分子ノ取回

(2) 視察ノ徹底強化

等ニ付指示等打合ヲ爲シタリ

2 昭和十九年六月三十日午前十一時ヨリ

秋 窪 西 柳 出 大 崎 吾 堀

小 松 ヲ 葛 節 中 野 杉 並

ノ八者ヲ特高主任ヲ特高第二課ニ召集シ、石岡課長ヨリ

第七日基會再臨園ノ結社禁止後ニ於ケ、視察取締上ノ注意事項ヲ指

示シ質疑應答ヲ爲シテ打合ヲ爲シタリ、

3 昭和十九年三月二十三日午後二時ヨリ

越 町 丸ノ内 築 地 雙 石 高 輪 六 本 木 表 町 骨 山

四 谷 早 稻 田 富 坂 平 富 士 大 崎 世 田 谷 目 黒 澁 谷

原 宿 代 々 木 淀 橋 戸 塚 中 野 野 万 杉 並 練 馬

三河島

ノ各者ノ特高主任ヲ特高ノ二課ニ召集シ
特高第二課長ヨリ

東方

勅皇まことむすび

大日本勅皇同志會

皇道實青年聯盟

四團體ノ一齊發舉後ニ於ケル取訓ベシ
逕迥及ビ之レガ革新團體ニ及
ボス影響等ニ付テハ取訓ニ關スル訓示ヲ爲シ
係長ヨリ

之レガ取訓取上ノ在任等以テ指示シ
事務打合せヲ爲シタリ。

M. Fujii.

Condition of reform campaign.
(June - August '44)

General view:

I. Activities of important parties

① Dainippon-Sekisei-kai

Hashimoto Kingoro

II. Incidents

① Arrest of suicide adviser to Tojo, ex-premier

#2164

M. Fujii

Summary of the activities of Dai-
Nippon-Sekisei-kai. (page 5)

Hashimoto Kingoro, president of the party,
with intent to disperse the party, became the
vice president and the chief of central
office of the Middle-aged men's society
of the Imperial Rule Association, on Aug.
17, 1944.

'Registered, July 12 '44, "Sekisei-Kogyo-
kaisha = Sekisei Mining Company" 15

Capital - 5,000,000 yen.

President Hashimoto Kingoro

Office 44 Takehashicho Nakaku
Keijo Korea.

昭和十九年九月二十九日
自六月
至八月



了

革新陣營

特高第二課



十) 王ナル國體ノ動向	1
一) 大日本赤誠會 (橋本欣五郎)	3
二) 大日本一新會 (吉田益三)	6
三) 國粹同盟 (笹川良一)	8
四) やまとむすび (佐々木一兆)	8
五) 天關打開期成會 (福井佐吉)	9
六) 大日本皇道會 (赤尾 敏)	9
七) 東亞聯盟同志會 (和田 功)	10
八) 大 東 盟 (影山正治)	11
九) 至 軒 寮 (櫻 嶺 五 一)	11
一〇) 皇道興賢主丹年聯盟 (豊島慶輔)	12
一一) 祭政一致興賢協會 (一條實孝)	12
一二) 皇風學舎 (三上 早)	13
一三) 殉難同盟 (増田一悦)	13

(二) 事件關係

一	天業社 (小長光務)	關係	一六
二	元大日本勤皇同志會 (故坂田馨)	關係	一六
三	元東方同志會 (故中野正剛)	關係	一六
四	元國民躍進同盟 (西山陽造)	關係	一六
五	元勤皇まことむすび	關係	一六
六	大東塾 (影山正治)	關係	一六
七	七國粹同盟 (笹良一)	關係	一六
八	皇道翼賛青年聯盟	關係	二〇
九	東條前首相二對スル日殺勸告者檢舉事件	關係	二〇

六、七、八月中ニ於ケル革新陣營ノ動向ハ險悪アリシ故變前ノ情勢ト斯ル等
意氣ガ一應緩和セラレタル故變後ノ情勢ニ分別觀察スルヲ安當トス
一 變前ノ情勢

六月六日西歐ニ於ケル反德軸側ノ第二戰線展開、同十五日サイパン島ヘノ
米軍上陸、同十六日北九州ヘノ敵機侵寇等六月上旬ニ於ケル相次グ戰局ノ甚
大化ハ痛ク革新陣營ヲ刺戟シ緊張兵ノ極ニ達シタリ
此ノ間ニ於ケル陣營ノ動向ヲ仔細ニ檢討スレバ、
一 此處ニ至リテハ

反政府的動向ハ如何ナルモノニセヨ名分上許サレズ飽迄現政府ニ協力シ
テ眞ニ一德決死ノ取調ヲ爲スベシトナスモノ、
他ハ敵前ニ於ケル故變ノ不利ナルコトハ勿論ナルモ現内閣ノ戰爭指導ヲ以
テシテハ一戰争完遂ハ期シ難キヲ以テ客觀情勢ノ如何ニ不拘此際國內体制
建直シノ爲メ故變ヲ企圖スベシトナスモノ、

トニ大別シ得ル情勢ニ在リタルカ次第ニ後者ニ傾ク情勢ヲ示セリ
一方政界其他一般智識階層間ニ於ケル第八十四 議會末期ヨリ次第ニ釀成シ

來りたる反政府の勢氣ハ副記戦局ノ重大化ニ刺戟セラレ、急速ニ反政府片

又他方本年三月四月頃ヨリ現レタル反東條ノ憤懣ヲ摘取セル不穩文書頒布

ノ傾向ハ戦局ノ重大化ニ伴ヒ益々熾烈トナリ、
1. 六月二十一日、東京ニ於テ、東條首相、國民大衆に、挨拶する。ト云フ。東京及

2. 六月二十五日附ニ、一五ヶ條ノ御誓文ト云フ。官僚獨善派總裁東條英徳
各ヲ用ヒ到向差出名ヲ一官長治則トシタルモノ。

3. 六月二十九日附ニ、一逆賊か狂者かト、頭書シタル葉書投書。
等相次イテ頒布セラレ、國內不安ハ益々増大シ、六月末ニ至リ當謀並ニ憲兵隊

本部ニ於テ、テモ危貨不穩又言頒布者ヲ相次イテ檢舉シ、一應斯ル不穩文書頒
布ノ傾向ハ阻止シ待タルモ急迫セル國內事態ノ緩和トハアラス、七月五日歐

府ガ大臨作戦一段落ヲ成シ帝國ノ對支態度ヲ聲明セルニ對シテモ「期ル聲
明ハマイパン戦況ヲ糊塗セシトスルモノニ外アラズ」ト稱シ或ハ「日本ノ

弱音アリトシテ運用セラル、應アル聲明ニシテ全ク不安ノモノアリ」ト唱
ヘル等批判的愚計ヲ成ツ者多ク又日本新聞、愛國新聞、報國新聞、やまと

新聞、帝國新聞ノ思想新聞ノ五社ハ聯合シテ戦意昂揚ノ國民大會ヲ開催セ

ント畫策シ殉難同盟ノ名ノ許ニ準備ヲ進メ來リタルガ之ガ計畫ノ進展ハ次
第二回國の國民運動ノ先導的役割ト移行セントスル傾向ヲ示スニ至レリ
如上、政界並ニ革新陣營ノ情勢ハ全ク混沌トシ勿情顯然一觸即發ノ情勢ニ
在リテ眞賊混ヲ安スレ厄局ト認メラレタリ

斯ノ情勢下ニ於テ政府ハ七月十七日海相島田大將ヲ野村大將ニ更迭シ翌十
八日ニハ參謀總長ニ梅津大將、教育總監ニ杉山元帥、陸軍司令官ニ山田
大將ヲ据ヘテ内閣ノ強化ト陸軍自衛ノ陣容延直シテ訂リタル七回日遂ニ總
辭職ヲ決行スルニ至リタリ

此ノ間ハ事情ハ政府聲明ニ

一、現下非常ノ決戦期ニ際シ愈々人心ヲ新々ニシ強力ニ戰爭完遂
ニ邁進スルノ要急アルヲ洞悉シ夙ク人材ヲ求メテ内閣ヲ強化セシムコトヲ
シ百万手取ヲ盡シ之ガ實現ニ努メタルモ遂ニ其ノ目的ヲ達成スルニ至ラズ

ト述ベラレタリ

今急進分子ノ時局觀ヲ洞悉スレバ左ノ如シ

日弁爲雄談

サイパン戦況ニツイテ色々見方ヲシテキル、私ハシテ死守スベシト
思フ、今一部ヲ考ヘテアレテキル、然レテ引付ケ戦術トカ内戦作戦
ニベキ時デアル、今頃氣味メ的ニ思儀ハ絶對ニ許サレナイ、如何ナル等情
起ラワトモ、サイパンノ上陸敵米軍ハ撃退スルノミデアル、此際徹底的ニ
反撃シテケレバ得ビ好儀ハ來テ利益々情勢ハ不利ニナル此ノ機曾ニ總テ
國力ヲ擧ゲテ有リ丈ノ飛行機ヲ前線ニ送り國內ノ守リニハ一機モ無クシテ
モ良イテハアイカ而シテ敵ノ大型機ニ對シテ味方ノ戦闘機ニ戦死トシテ
母艦等ニ對シテハ艦富リ立戦死トシテ「ハワイ」特別攻撃隊ノ如キ決死隊
ヲ編成シテ機動部隊ニ當ル以外ニハ方法ハアハ、私ハ東條首相ニ「フイリ
ソレン」ニマテ飛ンテ全軍ヲ指揮サレン等ヲ望ム、首相自ラガ戦死ヲ聲明
シ國民ニ激起ヲ呼掛ケレバ必ズ國內結束ハ速カニ成ルト思フ、若シ東條ニ
シテソノ決斷ガ無ケレバ東條内閣ハ忽ニソノ崩壊シ同時ニ東條ヲ殺サ
シマワ、私ハ東條ニ「サイパン」死守ノ決意ガ無イトスルテラ國民ニ
殺ラ以テ託ビサセタイ國民ハ一刻モ速カニ「サイパン」ノ敵撃退ヲ待ツア
キ、今ハ一刻ノ躊躇モテアア秋デアル、此ノ危急ノ場合政府ガ速カニ

決斷決行セザレバソレコソ反賊氣分ハ濃厚トアリ收拾出來ナイ様ニアル
虞ガアル政府ノ遺憾的動ヲ安望スル

歐民ハ國家危急ノ場合國家ノ爲メカラ政府ニ還願スル必要ハアイト思フ

此ノ意味ニ於テ國內ノ總動ノ遺憾的展開ヲ要求サレル吾々ハ出征

セシナイ敢用ニセカ、アイトナルガ口体方面アハ今ハ何セシテ居ラ

アイト從テ此ノ秋コソ挺身奉公ノ時テイルカラ「サイパン」ノ敵撃滅ノ

蹴起運動ニ進進シケレバアイト考ヘテ平ル、果隊ニ課セラレタル

唯一ノ使命ハ今日前ニアル人テイルカ出来ナイ様ヲゴトデアレバ果

隊ノ動シテ後任者ニ依ツテ「サイパン」ノ敵ヲ撃退セント叫ブテラマ

歐民ノ心理状態ハ爲政者ノ考ヘテ平ル様ヲ問單ニセテハアイト

歐民ノ心理状態

前述ノ如キ願志アル國內情勢ハ七月二十日小磯大將、米内大將ニ組織ノ

大命降下ヲ獎勵トシ一時一應一掃ノ安堵感ニヨリ、敵和セラレタルガ新機

府ノ施策如何ニト在視シ居ル状態ニシテ新政府ニ對スル觀察ハ政變ノ經

過、組織ノ事情等ヨリシテ、殊ニ從テ短命内閣ノ此許ヲ下シテ多ク八月

中旬以降ニ至ツテハ政策實施ノ進退ヲ從ヘ「不灰自動軍内閣」ノ辭許ヲ

下ノ政務官設置ノ風評ニ對シテ、以テ二對スル迎合的政策乃至其際ニ引
摺ラレ、内閣ト稱スル情況ニシテ、今後ニ於ケル政府ノ決戦政策如何ニ依
リ、日比強懸ナル空氣ヲ持持スルニ非スヤト思召セラル
又、美次ノ壯國長官本欣五郎ノ壯國長官兼本部長就任及ソノ後ニ
於ケル、軍新陣營ノ壯國ハ、進出ハ政變以上ニ陣營ノ關心ヲ唆ル處ト
リソノ將來ニ對シテハ、期待ヲ有スル者ト然ラザル者乃至ハ反感嫉視ヲ抱
クセ、有リテ壯國ノ動向如何ニヨリテハ、之又必然的ニ摩擦乃至反對進
動ヲ惹起スルモノト豫想セラル、状況アリ
今政變當初ニ於ケル、進分子ノ、
片岡暎、中村武、飯島興志雄談

政變ガ十八日行ハレテ居ルニ、不利發表ハ二十日ニ行テハレタ、而シテ、
タルヤ、葉鏗的ヲ無責任ヲ發表テ、ツタ、戦守可烈ナル真只中英、米カ、
慶ガ、發表スルガ如キ、責任ナル戦時内閣ガ、發表スルトハ、何等デア
ラワ、陛下ノ大前ニ、葉鏗詞ヲ、役ケタセ、同僚テハ、アイカ、如何アル理由テ
アルニシテ、口個人的、感情テ、戦守下政治ヲ、左右サレテハ、マ、マ、
斯ク、如キ、政府ニ、何ノ、戦守指導、下、有り、侍ヨシ、今後、誰レガ、首相ニ、
ヲ、ト、ト、東條ヨリ、ハ、長ク、アル、ハ、ズ、ダ、從ツテ、泉、味ノ、非、成、ヲ、明、カ、ニ、ス、ル

コトダ東條内閣ノ被擧マシメアイトコトニアル、東條ガ武人アラ切腹スベキデアラフ

自分等ハソレヲ期待シタ、中野正剛ハ輿論人デアリオガラ立派ニ切腹

シテ居ル、コノ靈ニ對シテ武人ハ武人トシテ責任ヲ取ルベキデアラフ

東條ノ罪状ヲ明ニスルコトニ矣論ヲ言フ、政府デハ又頼ルニ足ラン

小誠ニ聞クヲ期待スルコトハ不可能ダガ、セメテ維新内閣出塊ノ前夜

タラシメタイ、自分等ハ他人ガ倒レタ内閣アルカラ期待シオイト共

ニ發言ノ自由ヲ持タアイト

戦時内閣ノ原則論ヲ言ハバ内閣首班ニハ陸海軍ノ現役軍人ハ絶対エサ

ケアケレバアアアイト、後備デモ派閥ノ現存スルモノハサケアケレバ

アアアイト

「軍人ハ政治ニ關與スベカラス」コレガ日本ノ原則デアラフ、用シテ最モ

軍備ノ要求ヲ最大限ニ留シ得ル人物デアケレバアアアイト、今迄ノ様ナダラ

ハ平時ト異ナリ就仕ノ初メニ死ノ覚悟アルヲ安スル、今迄ノ様ナダラ

幹テ出世欲ノミノ人同共ニコノ時局ヲ適當サレテハ國內ノ闘争ハ絶ハ

アイト

(一) 主ナル団体ノ動向

一 大日本赤誠會 (橋本欣五郎)

大井上農法宣傳ニ主力ヲ集中シ此ノ運動ヲ通ジテ會塾ノ擴張ヲ企圖シ
來リタルガ七月下旬ヨリ第二ノ橋本宣言トモ稱スベキ一救國々民体當
リ運動一ヲ宣言シ活潑ナル運動ヲ展開セルガ思想運動ヲ逸脱シ附治運
動ヘト進展スル虞アリ注意中ノ處八月十七日ニ至リ會長橋本欣五郎ハ
大日本赤誠會ヲ解散スル意嚮ヲ以テ大日本舞贊壯年團副團長兼中央本
部長ニ就任、會首腦者モ亦相次イテ舞贊壯入リヲナシタルヲ以テ本會ノ
意圖シ來リタル革新運動ハ舞贊運動トシテ再出發スルモノト否認情況
ニシテ其ノ成行ニ就テハ注意ヲ要スルモノアリ

動 靜

1 本邦ニ於テハ大井上農法問題ヲ公論ニ訴ヘテ其ノ主張ヲ貫徹スベシ

トナシ六月一日該問題ニ關スル塾活動ノ方針ヲ掲載セル印刷物ヲ全
國關係塾宛發送セリ

2 日黒必讀塾ニアリテハ六月廿一日午後八時ヨリ同十時ノ間日黒塾中

日黒二丁目南町會塾所ニ於テ總會ヲ開催近藤塾長以下二十五名出
席塾長ヨリ世界戰局ト必勝ノ信念ニ付キ講演雜誌ノ後無事散會ス

3 七月二十六日二十七日ノ兩日ニ百〇本部ニ於テ本部委員七名、地方責任者二十一名出席、全國十六重点地區責任者會議ヲ開催シ會長橋本欣五郎並ニ本部八紘部長雨谷滿夫ヨリ「救國々民体當リ運動宣言」ノ主旨ヲ說明シ運動ノ活潑ナル展開ヲ協議セリ

4 七月三十一日「救國宣言並ニ綱領」ニ響應シ添附シ政治思想言論及文ニ關係諸團體一五〇ニ對シ發送「救國々民体當リ運動」ハ、贊同並ニ參加ヲ求メタリ

5 八月一日印刷物二一〇部ヲ本會下部組織タル縣郡市町宛發送「救國々民体當リ運動」ノ積極的展開ヲ指令セリ

6 七月十二日運動資金獲得ヲ目的トスル「共誠興業株式會社」ヲ設立シ資本金五百萬圓、社長橋本欣五郎、事務所京城府中區武橋町四四番地ニ登記創立セリ

7 八月十日「救國々民体當リ運動」促進ノ目的ヲ以テ憂國訪問義勇團幹部ヲ編成及文書ノ頒布方法ヲ指示セル通告書ヲ全國五十六縣、郡市地方宛宛發送セリ

8 機關紙「太陽大日本」七月二十五日附第一九一號「救國々民体當リ運動特別號」一六〇〇部ヲ全國地方宛宛八月十二日發送セリ

9 八月十二日一救國々民体當リ運動一ニ關スル情報トシテ多森、愛知縣下ニ於ケル該運動ノ進捗狀況ヲ掲載セル印刷物ヲ地方縣郡市塾宛發送セリ

10 八月十四日一救國々民体當リ運動一用ポスター紙型（合言葉、必勝体當リト表書セルモノ）ヲ全國重点地區十六縣郡市塾宛發送セリ

11 八月十七日會長橋本欣五郎ハ大日本蠶質壯年團副團長兼中央本部長ニ就任セリ

12 八月二十二日本部八紘塾長雨谷時夫ハ蠶質壯中央本部審議室主任ニ本部評議員來間恭ハ蠶質中央本部報導部長ニ附評議員小川喜一ハ蠶質本部總務ニ就任セリ

13 八月二十六日一救國々民体當リ運動一ノ地方ニ於ケル進捗狀況ヲ掲載セル印刷物一救國一六號ノ全國主要五十八縣郡市塾宛發送セリ

14 八月二十七日日本會解散ニ關スル本部ノ方針ヲ詳めニシテ引續キ解散式舉行ノ豫定ヲ以テ九月四日全國縣塾長會議開催ノ召集狀ヲ全國五十縣塾長並ニ都下二十地方塾長宛發送セリ

ニ大日本一新會（吉田益三）

本団体ハ從來東條内閣支持ノ態度ヲ持シ來レルガ或局ノ苛烈化ニ伴ヒ愈々益々内閣ヲ支持無以テ強力アル國家體制ヲ確立ヲ爲スベシトシテ改選前ノ急迫セル改局下ニ在リテハ總裁吉田益三八再三上京要路ヲ訪問シ内閣乃至反政府的動向ニ對シ阻止軍制ノ動ヲ爲シ來レリ改選後ニ於テハ新政府ニ對シ是々非々ノ態度ヲ採リ施策ニ關シ建言ヲ爲ス等ノ動向、概シテ平靜ナルモ改府ニ對シ冷談ニシテ注意ヲ與スルモノアリ

1

六月一日午後二時千葉友次郎外三名ハ内務省ヲ訪問、警戒警報發令中廳舎ヲ焼失セル大連都長官ノ責任追及並ニ無能ノ故ヲ以テ監督上書處セラレタキ旨ノ稟請書ヲ提出退去セリ

2

同日午後三時三十分前記引續千葉ニ手交セル辭職報告書ニ對スル確答ヲ求メン爲メ都廳ニ大連長官ヲ訪問セルモ不在ニシテ目的ヲ達セス退却セリ

3

六月五日吉田總裁名ヲ以テ吳鎮守府司令長官及同鎮守府施設部長宛

襲ニ「タヲワ、マキン島」ニ於テ戰死セル同會第二次南支派遺隊員
村上吉三郎外一〇名ニ對スル海軍合同葬ハ神式ニテ執行セラレ

4 總裁吉田益三ハ急迫セル政情下六月九日上京十四日歸阪
六月二十五日上京、二十七日歸阪、七月六日上京十日歸阪

→ 通リ再參上京セリカ
→ 滯京中ハ芝區虎ノ門村上旅館ニ投宿要路方面
→ 歴訪情報ヲ總取ソ併セテ戰局下收斂ノ不可アル點出ヲ力説セリ

5 六月十日午後五時三十分ヨリ薄田區矢口町ハ帽廠此ニ於テ本邦創始
生利重外六名
分營薄田區知外二十六名

出席薄田分營結成準備會ヲ開催セリ
6 六月十三日午後六時五十分ヨリ同九時間ノ間薄田區新宿國民學校ニ

於テ一億血戰演說會ヲ開催、聽衆一三〇名ニ對シ船生利重外二名ハ
敵愾心昂揚、戰力増強凶害者ノ絶滅、一億應召、血戰體制ノ確立ヲ
強調セリ

7 大日本一新會瀨野川分營ニ在リテハ七月十四日午後二時四十分ヨリ

向五時三十分ノ間豊島區千早町一ノ二、千早道場ニ於テ道場開、
聖式ヲ舉行、船生利重外四十名出席修版、祭詞祭文奏上、玉串奉奠、
直會ニ移リ無事終了セリ

8 大日本一新會瀨野川分會ニ在リテハ七月十六日午後七時ヨリ同外時
三十分ノ間豊島公會室ニ於テ一億血戰演說會ヲ開催セラルガ際中ヨリ
米英擊滅豊島區民有志大會トアン船生利重ヲ座長ニ政府親臨ノ決議
ヲ爲シタリ

9 七月二十日興政會橋本事務局長ニ對シ「東條内閣桂冠ヲ繞リ眞誠會
ノ策謀少カラザルモノアリ斯 舊政黨的政權盲動ハ斷シテ許スル
電話ヲ以テ申込ミタリ

10 七月二十七日午後一時ヨリ同四時三十分ノ間群馬縣沼田町教育會館
ニ於テ吉田益三以下各幹部並ニ關東地方各分會代表者約八〇名集合
關東地方大會ヲ開催セリ

11 同人森正七五三八豊島區西果場三ノ六六〇、皇道會館ヲ開設七月二
十九日午後三時ヨリ同七時ノ間同所ニ於テ吉田益三以下三五名出席
開催式ヲ舉行セリ